資料様式

令和７年度　事業報告書

伏見いきいき市民活動センター

【指定管理者：MACHISHIGOTO 合同会社】

１．管理運営の状況

施設運営業務

(1) 職員体制

センター長１名、職員６名（常勤：２名／非常勤：４名）

【人材育成の取組】

・ 職員研修を２回開催し、接遇マナーや、個人情報の取扱いをテーマにしました。

・ 京都市から共有された「ヘイトスピーチ解消法説明会」の開催記録を、職員に回覧しました。

・ 新たに採用した職員に対し、センターの管理運営について研修を行いました。

・ 年２回、職員と個人面談を行い、目標の設定と達成度の評価を行いました。

・ 職員の業務等に関する相談は随時受けています。

・ 月一回の定例会で、事業進捗、管理運営の共有などの情報交換を行いました。

(2) 貸館等

ア　利用件数（月別）

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
239	260	273	245	240	259	311	294	255	242	266	282

（年間）3,166 件（前年度比 103%）

イ　利用状況

・ 昨年度に比べて、全体の件数が増加しました。9 月以降前年度と比べると毎月約 20 件、月によれば 30 件増加している月もあります。昨年度も音楽室のご利用は当日予約もありましたが、今年度はとくに 201 の部屋で音楽利用（アンサンブル）をされる方が増加しています。また、音楽室が埋まっている場合でも、利用をやめずに 201 号室を利用される方がいることも、件数の増加につながっていると考えられます。

・ 昨年度から館外の歩道に面した掲示板による広報の効果もあり、掲示板を見て団体登録される方がありました。中でも、お一人で演奏練習をされる方の登録もありました。

・ また、コロナ禍以降地域で出演される利用団体も増加してきており、長時間演劇やダンスの練習で使用される団体も多かったです。

・ 一方でこれまでは、毎日のように集会室のご利用が入っていましたが、定期利用されていた方が本館の利用に移られ、曜日によっては終日利用がない日もあります。メンバーさんの高齢化や、代表者の環境の変化も影響していると考えられます。

ウ　利用促進に向けた取組

・センター2 階の窓を利用し、国道 24 号線を通行される方に向けた掲示物を大きくリニューアルしました。これまでの文字のみの掲示から、新たにダンスのシルエット画像や「鏡のお部屋」といった設備を示す言葉を追加し、どのような活動ができるのか分かりやすく改善しました。さらに、車や遠方からの視認性も考慮して電話番号を大きく明記することで、興味を持った方がその場ですぐに連絡できる導線を整えました。この工夫により、近隣のガソリンスタンド等で掲示を見た方から「音楽室が利用できると知った」「部屋のレンタルができることを知った」と直接お問い合わせをいただくなど、実際の利用につながる確かな成果がありました。

・センターのリーフレットを、伏見区内の福祉施設や保育所、関係機関へ幅広く配架し、潜在的な利用層に向けた広報活動に努めました。

エ　その他

サロン利用者（延べ）：2,544 名（昨年度：2,691 名）

・全体の利用人数は昨年度と比較して減少しました。主な要因として、昨年度まで実施していた特定の「〇〇さんの日」の活動が終了したことが人数の減少に影響していると推測されます。

・一方で、今年度新たに始動した「おしゃべりサロン」が気軽な立ち寄り口として機能し、ここを入り口として初めて来館された方が、その後複数のグループ活動へ継続的に参加されるなど、活動の幅を広げる好事例が生まれました。

・また、サロン利用者からは「堅苦しい指導の場ではなく、各々がゆるく楽しく過ごせる心地よい空間」との声が寄せられています。利用者がプレッシャーや負担を感じることなく、自身のペースで活動に参加したり、日中を過ごしたりできる場所として定着していることが確認できました。

・多世代交流の促進に向けては、未就学児親子の居場所「にこにこルーム」において絵本の読み聞かせイベント等を実施し、親子連れが日常的にサロンを訪れやすい環境づくりにも取り組みました。

(3) 情報発信等

ア　取組実績

・SNS（Facebook、Instagram）を活用し、主催事業の様子や貸館情報などを定期的に発信しました。

・SNSでの発信においては、事業の連携先や地域イベントに出演した利用団体のアカウントをタグ付けすることで、センターの単独発信ではアプローチが難しい層への情報到達を図りました。

・伏見区内で活動する市民団体を支援するため、活動に役立つ各種助成金の情報発信を行いました。

・利用者から別館（集会室）への行き方に関する問い合わせが多く寄せられたため、本館から別館へのルートを案内する動画を作成し、SNSで配信しました。併せて、本館入口にも分かりやすい案内掲示物を設置しました。

イ　取組の効果

・事業に関する発信では、イベント当日の様子だけでなく、事前の打ち合わせや交流会などの「プロセス（過程）」も継続的に発信することで、事業の背景や魅力をより深く伝える工夫を行いました。その結果、事前交流会の投稿に対して SNS 上で好意的なコメントが寄せられるなど、利用者との双方向のコミュニケーションが生まれました。

・さらに、これらの情報発信が広範に届き、当センターの SNS をご覧になった愛媛県教育委員会（社会教育課）から、事業内容や施設運営に関する問い合わせを受けるなど、広域的な認知の向上につながり、他自治体への情報発信も実現できました。

(4) その他

・センター周辺のバス停留所に、バス待ち時間などに利用できる「休憩所」として当センターを開放している旨の案内を掲示しました。また、館内に新たに「給水スポット」を設置したことで、暑さ対策や休息目的など、これまでの貸館利用団体とは異なる新たな層の方々に来館していただくきっかけとなりました。

・地域連携の一環として「藤森竹田児童館連絡会議」に参加しています。センターを利用する子どもたちの様子についての情報交換や、藤森・竹田地区で活動する学生団体に関する情報共有を行い、地域機関とのネットワーク強化に努めました。

・竹田小学校２年生の児童が、授業の一環として当センターへ施設見学に訪れました。センター長から施設内の案内や日頃の業務内容について説明を行い、地域の子どもたちに公共施設の役割や市民活動について知っていただく貴重な機会となりました。

・大学などの教育機関と連携し、地域における学生の活動コーディネート（龍谷大学政策学部「Ryu-SEI GAP」など）のサポートや、関連する活動への出席を継続的に行いました。

【事業名】地域ボランティアの社会見学プロジェクト

事業の概要

開催日時：2025 年 5 月～2026 年 2 月（全 4 回）　別途事前交流会を 4 回実施

開催場所：伏見いきいき市民活動センター、原田ファーム、みんなのカフェちいろば、藤森神社、南部公園

参加人数：延べ 29 名

協力団体等：原田ファーム、深草子ども食堂 実行委員会、藤森子どもまつり実行委員会、南部公園愛護協力会

予算／決算：予算：1,820,000 円　／　決算：1,824,041 円

1　事業内容

昨今、地域活動団体から、担い手不足を解消したい、参加者を増やしたいといった相談を受ける機会が増えています。一方で、学生や定年退職後のシニアなど、ライフスタイルの変化を機に「何か活動を始めたい」「一歩踏み出したい」という声も多く聞かれます。しかし、そうした方々の中には、「一度参加すると継続しなければならないのではないか」「まずは少しだけ活動をのぞいてみたい」「一人で新しい場所に飛び込むのは不安」という思いを抱えているケースも少なくありません。そこで、誰もが気軽に地域活動への最初の一歩を踏み出せる機会を提供することを目的に、伏見区内の活動団体の様子を見学し、運営者の思いを直接聞くことができる体験会を実施しました。

2　準備段階での工夫

活動への参加に不安がある方でも安心してご参加いただけるよう、体験日の前に交流会を開催しました。単なる情報伝達に留まらず、活動先の背景や思いを事前に共有することで、当日をより実りある時間にできるよう工夫しました。

地域の団体とは事前の打ち合わせを重ね、参加者の継続的な関わりを視野に入れたプログラムを構築するなど、地域の思いともマッチするよう心掛けました。

広報においては、既存の媒体に加え、スタッフが地域に直接赴き説明を行う「顔の見える広報」を徹底しました。これにより、潜在的な関心層の懸念を個別に解消し、参加への動機付けを行いました。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

社会貢献や地域活動への関心がそれほど高くない方でも気軽に参加できるよう、ハードルの低いジャンルを選定し、多様な層の参加を促すことを目指しました。具体的には、伏見区内の活動団体 4 団体との連携、および延べ 25 名の参加を目標としました。また、事後アンケートにおいて「継続して参加してみたい」と回答する方の割合を 8 割以上とすることを数値目標として掲げました。

（2）事業実施による目標の達成度

今年度は「子ども」や「健康」というテーマのもと、農業体験、子ども食堂、地域のおまつり、緑化活動を行う 4 団体と連携し、体験プログラムを実施しました。その結果、延べ 29 名にご参加いただきました。参加者の年齢層は 10 代～80 代と幅広く、ご夫婦での参加やご友人同士、お一人での参加など形態も多岐にわたり、多世代交流が実現しました。

事後アンケートでは、満足度が「とても満足」75%、「満足」20%（計 95%）と非常に高く、当初掲げた数値目標を達成することができました。また、参加者のうち約 58%が、「参加者同士で交流・活動を行うイベントへの参加が初めて」と回答しており、本事業が「一歩踏み出す」きっかけとして一定の役割を果たしたと言えます。さらに、参加動機の第 1 位が「一度試しに覗いてみたかったから／一度試しにやってみたかったから（約 30%）」であったことから、当初の狙い通り、心理的なハードルを下げた気軽な参加機会を提供できました。

加えて、連携先の団体からも、「大人のボランティアが来て助かった。地域として、今後おまつりを継続していくためにも、このような体制を自分たちで構築できるようにしていきたい」「今回いきセンと一緒に企画をやってみたことで、受け入れ人数の限度が分かり、今後の参考になった」という運営面での前向きなフィードバックも得られました。

また、2 つの体験活動から通常活動へ継続して参加する姿が見受けられました。

4　今後の抱負

今後も多様なテーマ設定と伏見区内の幅広いエリア展開を行い、「一歩踏み出す」参加機会を創出していきます。

今回の成果を踏まえ、特に地域活動未経験者の参加割合を維持しつつ、本事業へのリピート参加率を向上させることで、参加者がより多様な活動に触れる機会を創出していきます。また、体験を通じて継続的な活動を希望する方に対しては、次回以降のスムーズなコーディネートができるよう、受け入れ団体との連携体制を強化します。

参加者の属性については、定年退職後のシニア層の活動を後押しするという方針を継続しつつ、今後はさらに幅広い世代の「一歩踏み出す」を支援できるよう、ターゲットに応じたアプローチを検討していきます。

1

【事業名】新しいチャンスを生み出すマッチングプロジェクト

事業の概要

開催日時：2025 年 5 月～2026 年 2 月（全 12 件）

開催場所：羽束師児童館、板橋児童館、納所城之内児童館、青少年活動センター、東高瀬川包括支援センター、フルール向島、向島集会所、深草商店街

参加人数：12 団体

協力団体等：なし

予算／決算：予算：1,800,000 円　／　決算：1,776,522 円

1　事業内容

地域での活動の中には、毎月定期的に実施している居場所や、季節イベントがあります。地域主催者側は、工夫を凝らして内容を実施していますが、自分たちだけで出演者を探す事や新しい内容を考えるには限界があります。

一方、センター利用団体のなかには、地域で活動を発表する機会を探しているケースも少なくありません。活動を発表することを目標に日々の練習を頑張ることができるという声もよく聞かれます。

そこで、活動メニューに悩む地域団体と活動の機会を求めるセンター利用団体を結び、新しいつながりを築く取り組みとして昨年度に続き、今年度も実施しました。今年度は 15 件のご相談をいただき、12 団体をお繋ぎしました。

2　準備段階での工夫

地域主催者の方が、連携内容を具体的にイメージできるよう、過去の事例をまとめた冊子「ふしみむすぶっく活用レポート」を持参し、直接対面での説明を行いました。

また、お繋ぎしてからは必ず事前に顔合わせや打ち合わせを実施しました。特に打合せから本番までに期間が空くイベントにおいては、その間に地域側・利用団体側の双方へ「準備で困っていることはないか」「新たに生じた確認事項はないか」など、当センターが間に入ってこまめなヒアリングとフォローアップを徹底しました。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

地域主催者の企画・運営の負担を軽減すると同時に、市民活動団体の発表機会を創出することで、地域内に新たな交流と活力を生み出すことを事業効果としています。

昨年度の課題を踏まえ、事例冊子の活用や丁寧なヒアリングを通じてより多くの方へ情報を届け、マッチングの質と量の拡大を目標としました。

さらに、マッチング後の継続的な地域参加を促すアフターフォローの実施も目指しました。

（2）事業実施による目標の達成度

今年度は、15 件の依頼がありました。そのうち 6 件が新規依頼となりました。また、一度依頼のあった地域から別の団体へのリピート依頼が来るなど、地域との継続的なつながりに発展しています。

今年度初めてお繋ぎした団体からは、自身の活動のモチベーションや意欲向上に繋がる声を多くいただきました。

例えば、過去にご自身で児童館に依頼して断られた経験を持つ団体が、今回センターを通じて「子どもたちにダンスを教えたい」という長年の夢を実現させ、「今後も児童館で教える活動を行っていきたい」とさらなる活動意欲に繋げることができました。さらに、コロナ禍を経

て久しぶりに高齢者施設で出演した吹奏楽団からは、「団としても大きな一歩になった」との声をいただいています。団体単独ではハードルが高い地域への出演も、センターが間に入ることで実現し、市民活動と地域をつなげることができました。

4　今後の抱負

今年度ヒアリングを通じて、「地域で活動したい」という想いを具体的に把握することができました。次年度も引き続きヒアリングを重視し、団体と地域の双方にとって満足度の高いマッチングを追求していきます。また、これまでの依頼は既存の関係性や直接の交渉によるものが中心でしたが、今後は自治会や社会福祉協議会といった組織に属していない層へも広く情報が届くよう、広報の裾野を広げていきます。具体的には、地域のイベント等での出張ブース出展などを積極的に行い、新たな連携を広げて行きたいと考えています。

【事業名】多世代交流拠点きょういく基地プロジェクト

事業の概要

開催日時：2025 年 5 月～2026 年 2 月

・健康まーじゃん塾：20 回

・筋トレ体操(足上げ)：20 回

・コグニステップ(認知症予防)：9 回

・いきいき筋トレ(ロコステップ)：9 回

・ハンドメイドサロン：10 回

・おしゃべり手芸サークル：9 回

・歌声サロン：10 回

・おしゃべりサロン：7 回（新規）

・にこにこルーム：10 回

開催場所：伏見いきいき市民活動センター サロン

参加人数：・健康まーじゃん塾：延べ 592 名

・筋トレ体操(足上げ)：延べ 508 名

・コグニステップ(認知症予防)：延べ 97 名

・いきいき筋トレ(ロコステップ)：延べ 611 名

・ハンドメイドサロン：延べ 64 名

・おしゃべり手芸サークル：延べ 33 名

・歌声サロン：延べ 253 名

・おしゃべりサロン：延べ 20 名

・にこにこルーム：延べ 20 名

・自由来館：延べ 188 名

協力団体等：なし

予算／決算：予算：1,120,000 円　／　決算：1,092,241 円

1　事業内容

今年度も、シニアの得意なことを活かし、仲間を募って活動をスタートさせる「○○さんの日」を継続して実施しました。今年度は 7 つのグループが活動しました。一方的に教える形ではなく、参加者同士の交流を大切にした運営を行っています。これまでの活動を継続しつつ、さらに良い変化を生み出すために、各グループの代表者に集まっていただき、一年間の振り返りや思いを共有しあう「リーダー交流会」を開催しました。

また、今年度からの新たな取り組みとして、月に一度、ロビーで少人数の茶話会を行う「お

しゃべりサロン」を始動しました。

さらに、昨年度に引き続き、未就学児親子の居場所づくりとして「にこにこルーム」では日常でもサロンをご利用いただけるよう絵本の読み聞かせを行うイベントを実施しました。

2　準備段階での工夫

各グループのリーダーやメンバーとのコミュニケーションを丁寧に行いました。日々の活動の様子だけでなく、活動中の困りごとのヒアリングに努めました。

例えば「手芸のネタに困っている」という声に対しては、スタッフが一緒にネタを探して情報提供を行うなど、継続的な活動に向けたサポートを行いました。歌の活動では「リクエストボックス」を設けてメンバーが歌いたい曲を募るなど、参加者が主体的に楽しめる工夫を取り入れました。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

シニアの方が今までのスキルや得意を活かして、主催する場づくりをサポートすることを目指します。また、サロンから一歩踏み出し「自立的に活動するシニアグループ」への成長を目指しました。また、窓口となる新たな取り組みを通じて、参加者の間口を広げることを目標としました。

（2）事業実施による目標の達成度

今年度から実施した「おしゃべりサロン」は、気軽に立ち寄れる場として機能し、多様な情報交換の場として価値を感じていただけました。実際に、普段一人暮らしをされており「何か始めたい」という思いを抱えて初めて来館された方が、このおしゃべりサロンを入り口として継続利用に繋がり、現在では 4 つの異なるグループ活動に参加されるなど、活動の幅を大きく広げる事例も生まれました。

利用者の方から、「ここは”指導”のような堅いものではなく、各々がゆるく楽しく過ごせる心地よい空間です」という声をいただきました。当プロジェクトが、ご自身のスキルを無理なく活かせる大切な居場所として機能していることが確認できました。

「ハンドメイドサロン」は、今年度から材料準備等を含めた自主運営へと移行しました。当初は準備段階や役割分担について苦悩する場面もありましたが、運営の方向性について主体的に協議されるなど、活動の自立に向けた着実な歩みが見られました。

4　今後の抱負

気軽な窓口として定着し始めた「おしゃべりサロン」については、利用者自身が主体となって企画・運営する「自立したグループ」へと発展していけるよう、サポートしていきます。

また、既存グループへの新規参加者を継続的に受け入れつつ、「何か始めたい」と気軽に相談できるような広報活動をさらに強化します。今後はシニア層に留まらず、多世代が交流できる「誰もが使える開かれた場所」として、より幅広い年代へ向けた情報発信と場づくりを進めていきます。

３．利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

１　利用料金の収入実績

令和７年度実績：4,400,460 円（前年度比：102%）

内訳　会議室等：4,349,000 円

付属設備：51,460 円　※自主事業分を除く

スモールオフィス：なし

２　管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

４．施設の利用者満足度の把握

１　利用者満足度の把握状況

（１）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和７年 11 月実施

【調査項目】窓口サービス

（2）センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2　利用者満足度把握の結果

（1） 全センター共通窓口サービス

	満足	普通	不満	無回答
①　案内表示のわかりやすさ	65.4%	33.7%	1%	0%
②　挨拶や声かけ	87.5%	12.5%	0%	0%
③　身だしなみ	86.5%	13.5%	0%	0%
④　表情や態度	89.4%	10.6%	0%	0%
⑤　言葉づかいや説明の丁寧さ	89.4%	10.6%	0%	0%
⑥　説明のわかりやすさ	80.8%	19.2%	0%	0%
⑦　整理整頓	83.7%	16.3%	0%	0%

（2）センター独自アンケート

〇実施なし

3　意見等への主な対応状況

・ 昨年の窓口アンケートから、ダンス用の大型かがみを増設しました。

・ 玄関口の腰掛を置きました。

・ 空調故障により、夏場は扇風機の貸し出し、冬場はヒーターの貸し出しを行いました。

5．指定管理者による管理運営業務の自己評価

・ **取り組んだ事業等の総括を記載してください。**

提案事業などで、利用団体の方の出演の場を提供するコーディネートに力を入れました。

事務室のレイアウトを変更し、利用者、地域の方との交流スペースを設けました。

・ **今後、解決すべき課題等があれば記載してください。**

建物の老朽化により、故障個所が増加しているので、元に戻すことより、軽微で以前の環境に近づける修繕方法を考えます。

・　**次年度に向けた対応について記載してください。**

次年度は、利用者や地域の方々のコミュニケーションを密にとりながら、伏見に必要とされている取り組みを検討、実施していきます。

６．その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

1F 事務室および 2F 音楽室の空調が故障しました。冬場はストーブの貸与で乗り切りましたが、夏場の気温上昇への対応については、早急に検討すべき課題です。

京都市伏見いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和7年度分）

指定管理者名　MACHISHIGOTO合同会社

代表者名　　三木　俊和

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		**16,960,000**	16,961,240	1,240
利用料金収入		4,249,800	4,400,460	150,660
	会議室等	**4,200,000**	4,349,000	149,000
	スモールオフィス	**0**	0	0
	付属設備（自主事業を除く）	**49,800**	51,460	1,660
その他収入	光熱水費分担金	**0**	0	0
	個別事業参加費	**0**	10,000	10,000
当期収入合計		21,209,800	21,371,700	161,900
【支出の部】 1．施設運営業務				
人件費		9,011,690	9,189,842	▲ 178,152
	職員9名	7,346,934	7,712,653	▲ 365,719
	法定福利費	1,635,056	1,447,489	187,567
	福利厚生費	29,700	29,700	0
光熱水費		2,320,000	2,295,414	24,586
	電気代	1,300,000	1,397,068	▲ 97,068
	ガス代	900,000	783,885	116,115
	水道代	120,000	114,461	5,539
施設管理費		1,804,448	1,804,748	▲ 300
	定期清掃等	440,000	440,000	0
	機械警備	319,440	319,440	0
	消防保守点検	115,000	115,500	▲ 500
	空調保守点検	253,000	253,000	0
	フロン排出抑制法に基づく機器の定期点検		110,000	
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検	60,500	60,500	0
	自家用電気工作物	277,200	277,200	0
	建築設備点検	71,500	71,500	0
	一般廃棄物	110,000	137,808	▲ 27,808
	産業廃棄物	137,808	19,800	118,008
	樹木剪定	20,000	0	20,000

事務費		1,122,871	1,159,944	▲ 37,073
	旅費交通費	535,735	472,726	63,009
	消耗品費	80,000	39,842	40,158
	印刷費	0	3,040	▲ 3,040
	リース料	171,336	171,336	0
	通信費	300,000	300,008	▲ 8
	新聞図書費	22,800	31,272	▲ 8,472
	支払報酬	0	132,000	▲ 132,000
	支払手数料	13,000	9,720	3,280
修繕費		750,000	539,100	210,900
	空調修繕（事務室他系統）		335,500	▲ 335,500
	空調修繕（2階系統）		173,800	▲ 173,800
	事務PC修繕（バッテリー交換）		29,800	▲ 29,800
備品購入費（５万円以上の物品）		0	0	0
	なし	0	0	0
租税公課		1,400,000	1,383,606	16,394
	消費税	1,400,000	1,383,606	16,394
その他		16,100	13,010	3,090
	賠償責任保険保険料	16,100	13,010	3,090
施設運営業務支出合計		16,425,109	16,385,664	39,445
２．事業実施業務				
市民活動支援・活性化事業費		3,630,000	3,600,563	29,437
	伏見の市民活動を生み出す支援プロジェクト 〜新しいチャンスを生み出すマッチング事業	1,800,000	1,776,522	23,478
	伏見の市民活動を生み出す支援プロジェクト 〜地域ボランティアの社会見学プロジェクト	1,820,000	1,824,041	▲ 4,041
サロン運営・活用事業費		1,120,000	1,092,241	27,759
	多世代交流拠点きょういく基地プロジェクト	1,120,000	1,092,241	27,759
その他	事業実施業務繰越	0	0	0
事業実施業務支出合計		**4,750,000**	**4,692,804**	57,196
当期支出合計		**21,175,109**	**21,078,468**	96,641
当期収支差額		34,691	293,232	258,541

資料様式

令和７年度　事業報告書
醍醐いきいき市民活動センター

【指定管理者：株式会社ワン・ワールド】

１．管理運営の状況

１　施設運営業務

（１）職員体制

センター長１名、職員５名（常勤３名、非常勤３名）

【人材育成の取組】

醍醐いきセンでは、令和４年度から毎年京都橘大学の「学まちチャレンジ！プロジェクト」と連携し、地域でまちづくりやボランティア活動をしたい学生の受け入れを行ってきた。学生が地域で取り組む活動において、自分たちがやりたいことを明確にして活動に至るまでのサポートを行った。卒業してからもボランティアとして地域の活動に参加することとなった。

スタッフにおいては、京都府生涯現役クリエイティブセンターで開催されている「生成 AI パスポート取得」講座を受講。リスクとコンプライアンス、情報セキュリティの基本等を学ぶ。

（２）貸館等

ア　利用件数

（月別）

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
85	81	89	91	90	87	102	94	76	80	77	95

（年間）

1,047 件（前年度比　103%）

イ　利用状況

○平日、土日に関わらず、年間を通じて集会室の利用が多く、ジャンルは子ども大人を問わずダンス系サークルや空手の利用が多かった。会議室では平日昼間の利用が多く、中高年の詩吟やコーラス、楽器演奏などの文化系サークルの利用が多かった。和室では昼間に楽器演奏が高い頻度（週 3～4 日）で利用があり、午後から夜間にかけて空手や体操サークルの利用も定期的にあった。

○会議室 3 に鏡を設置したことで、ダンスサークルの個人レッスンでの利用が増えた。

ウ　利用促進に向けた取組

○SNS での発信をきっかけに、利用につながった。だいごゆめもり秋祭りや醍醐いきいきフェスティバルなど、活動発表の場をいくつか提供することで、それに伴い利用率が上がった。

エ　その他

○サロンの利用者数は 748 名で前年度比 49.8%。減少の理由は、サロン事業の「まちかど美術館」に作品を提供してくださっていた春日丘センターの状況の変化により、作品の提供や利用者の見学が減ったことと、毎日来られていた高齢者が体調不良でほとんど来られなくなったため。

（３）情報発信等

ア　取組実績

○ホームページ、Facebook、X、Instagram、LINE など SNS で情報を発信。
Facebook、Instagram はほぼ毎日、X でも積極的に発信している。リーフレットも気軽に手にしてもらえるようデザインやサイズを一新して、いきセンのイベントだけでなく、他の連携事業のイベントでも積極的に配布した。

○7 年度は他団体や行政との連携事業やイベントが多く、いきセンとして市民活動相談のブースを出すなど、アウトリーチ活動も積極的に行った。

イ　取組の効果

○連携先のイベントに参加することで、センター単独では出会えない市民や団体にアピールすることが出来た。また SNS を見て、貸館利用につながった。

（４）管理運営

○建築設備点検、消防設備点検、自家用工作物の保守管理、定期清掃等を実施。

（５）その他

○施設運営においては、利用者からの声に真摯に耳を傾けて、スタッフ内でもすぐに共有できるよう努めた。

○7 年度も地域の様々な団体や施設、行政と連携しての取組が多かった。
・辰巳保育所では、いきセンと活動団体で子どもや保護者向けに手作りコーナーを担当し、子育て層にいきセンを周知することが出来た。
・春日野小学校では、地域の消防団や少年補導、PTA などが子ども向けにゲームをする学校行事に、いきセンも毎年協力団体として参加させてもらっている。そういう関係性が出来ていることから、いきセンのフェスティバルを小学校の体育館で開催させてもらうことができた。
・高齢者施設の同和園との共催事業では、いきセン単体では繋がれない地域の多様な団体や企業と一緒に一つの祭りを作ることが出来た。4 年目となる 8 年度は誰もが参加しやすい醍醐地域の中心部に会場を移して、地域の子どもから高齢者まで、障がいがある方も当たり前に楽しめて主役になれるイベントとして開催予定。
・醍醐支所との連携事業では「つながるプラットフォームミーティング」「醍醐まちづくりカフェ」「だいご子育てオープンデイ」で、いきセンと関わりのある活動家を紹介したり、市民活動相談コーナーを担当したり、いきセンとしての役割を果たすことが出来た。

２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】だいご未来プロジェクト（市民活動支援・活性化事業）（①～⑦）

予算：　2,179,750 円　　／　決算：　2,273,152 円

①「ふらっと相談カフェ」

事業の概要
1　開催日時：令和 7 年 5 月～３月　毎月第 3 月曜日 13 時～15 時
2　開催場所：Cafe & Shop ふらっと　／　醍醐いきいき市民活動センターサロン
3　参加人数：　延べ 35 名
4　協力団体等：京都市協働コーディネーター、ギター演奏ボランティア

1　事業内容

毎月第 3 月曜日の 13 時から 15 時にかけて、「Cafe & Shop ふらっと」を会場に、市民が気軽に立ち寄れる相談・交流事業を実施した。福祉、町内会活動、まちづくりなど多岐にわたる相談に対し、「醍醐いきいき市民活動センター」のスタッフ、まちづくり協働コーディネーター、および地域ボランティアが連携して対応した。単なる相談業務に留まらず、14 時からはギター演奏の時間を設けるなど、リラックスした雰囲気（ゆったり、おしゃべり）の中で対話が生まれる場を提供した。

2　準備段階での工夫

「コラボ企画」として、社会福祉法人だいご学園が運営する「Cafe & Shop ふらっと」を会場として使用し、福祉施設との連携体制を構築した。また、地域ボランティアの参画を促し、相談対応だけでなく、ミニコンサート（ギター演奏）も実施した。これにより、行政サービスの一環としての「相談」を、地域住民による「支え合いと交流」の形へと昇華させることができた。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

孤立しがちな住民が社会との接点を持つきっかけを作ること、および、まちづくり活動に対する心理的ハードルを下げること。月平均 3～5 名程度の来場者確保と、相談をきっかけとした新たな地域活動へのマッチングを成立させること。

（2）事業実施による目標の達成度

「カフェでの相談」という形態により、「ちょっとした困りごと」を早期に吸い上げる仕組みとして機能した。また、第 3 月曜日が祝日の場合も平日に来れない方が相談に来れて様々な層が気軽に来れる空間になった。「役所の窓口に行くほどではないと思っていた町内会の悩みを、コーヒーを飲みながら気軽に聞いてもらえて心が軽くなった。」等の声があり、いきセン事業の参加者が相談ある際に相談カフェを促したり、相談カフェの参加者にいきセン事業を紹介し参加に繋がったりと事業と事業の橋渡しも出来た。

4　今後の抱負

今年度の実施を通じ、カフェという「サードプレイス」での相談支援が、地域コミュニティの活性化に極めて有効であることを再確認した。今後は、相談内容を分析し、より専門的な支援が必要な場合には適切な関係機関へスムーズに繋げる「ハブ機能」を強化していく。また、参加者同士の交流から新たな「自主的なまちづくり活動」が生まれるよう、コーディネーターによる伴走支援をより丁寧に行っていきたい。

事業風景の写真

②「醍醐 de ワイワイ井戸端会議　あなたもコミュニティデザイナーになろう！」

事業の概要
1　開催日時：令和 7 年 6 月 23 日（月）13 時～16 時
2　開催場所：伏見区役所醍醐支所会議室
3　参加人数：33 名
4　協力団体等：伏見区役所醍醐支所、京都市協働コーディネーター

1　事業内容
「地域資源の連携が生み出すパワー！」をテーマに、地域課題を解決する「コミュニティデザイナー」の育成研修を実施した。京都橘大学教員による講義、事例紹介、そして「地域資源を活用したプロジェクトデザイン」を学ぶワークショップを行った。最後に、自由参加の交流会を設け、参加者同士のネットワーク構築を図った。

2　準備段階での工夫
会場での参加に加え、オンラインでも同時開催で実施した。これにより、移動の制約がある方や、遠隔地からも参加できる環境を整え、多様な参加者層の確保に努めた。

3　事業実施による効果・達成度
（1）当初の事業効果，目標等
地域住民が「新しい公共」の考え方を学び、自らの地域資源を活用して課題解決に主体的に関わる仕組み（プロジェクトデザイン）を習得すること。
当センタースタッフのスキルアップ。

（2）事業実施による目標の達成度
定員を超える参加で、高い関心が寄せられた。講義からワーク、さらに自由参加の交流会まで一貫したプログラムを提供したことで、「学ぶ」から「つながる」へのシームレスな移行が実現した。特にワークショップでは、具体的な地域資源の活用手法を共有し、実践的なスキル向上に寄与した。「地域に対する熱い想いをもった方々とつながることができ、エネルギーをいただいた」「具体的なプロジェクトの進め方が見えてきた」との声があった。
交流会の時に、当センタースタッフが参加者同士のマッチングを行い、実際にボランティア派遣につながった。

4　今後の抱負
定員を超える参加人数で、地域資源を掛け合わせる「コミュニティデザイン」への関心の高さがみられた。アンケートでも「具体的な次のアクション」を求める声が多かったことから、今後はこの場から生まれたプロジェクト案を実際に形にするための「実践編」の開催や、個別相談による伴走支援を強化していきたい。

事業風景の写真

要申込
参加費無料
先着30名
醍醐deワイワイ井戸端会議
京都市
地域資源の連携が
生み出す力ワー！
あなたも
コミュニティデザイナー
になろう！
地域のつながりを育て、
みんながいきいきと暮らせる社会を目指して——
6/23月 13:00～16:00
伏見区役所醍醐支所3階会議室
プログラム
お問合せ・お申込み（フォームorお電話orFax）
京都市醍醐いきいき市民活動センター
☎075-571-0035 FAX 075-573-5224

③「だいごゆめもり秋祭り」

事業の概要
1　開催日時：令和 7 年 9 月 27 日(日)16 時～20 時
2　開催場所：醍醐いきいき市民活動センター、友愛ひろば
3　参加人数：750 名
4　協力団体等：だいごゆめもり秋まつり実行委員会（醍醐いきセン、体験型子ども食堂みらい食堂、京都橘大学）

1　事業内容
醍醐いきセン、みらい食堂（体験型子ども食堂）、京都橘大学が「だいごゆめもり秋まつり実行委員会」を立ち上げ、お祭りを開催した。
醍醐いきセンおよび友愛ひろばを会場とし、飲食ブースやゲームコーナーなどを設けた。

2　準備段階での工夫
センターの指定管理者である株式会社ワン・ワールドに加え、地域の自治町内会、京都橘大学、京都市ユースサービス協会、社会福祉法人だいご学園など、多岐にわたる団体と実行委員会を組織し、官民学が連携した準備体制を構築した 。

3　事業実施による効果・達成度
（1）当初の事業効果，目標等
地域住民の帰属意識の向上、および多世代が自然に交流する場の提供。若者ボランティアによる主体的な運営の実現 。

（2）事業実施による目標の達成度
いきセンのことを知らなかった方々に多数ご来場いただき、センターの認知を広げる良い機会となった。
様々な団体からボランティアの方が来られ、新たな繋がりを築くことができた。加えて、協力団体にとっても社会活動の受け入れ先として、貴重な体験の場を提供することができた。
上鳥羽北部いきいき市民活動センターにも出店していただき、いきいき市民活動センター同士の交流が持てた。
ボランティア同士の交流があり、新たな活動に誘い合ったり、やりがいや楽しさを知ってもらう良い機会となった。
洋服の交換会での活動では、昨年も来られた方が寄付の物を持って来たり、事業の参加に繋がった。

4　今後の抱負
次年度は、若者や企業にも参画してもらいステージ企画の構成や広報物のデザイン、当日の司会進行など、より中核的な役割を担えるよう、エンパワーメントを目的とした支援を強化し、みんなで発展させていきたい。

事業風景の写真

だいごゆめもり
秋祭り
醍醐いきセンと友愛ひろばで
お祭りを開催します♪
屋台やゲームコーナーもあり♪
9/27(土) 16:00～20:00
雨天決行
荒天中止
会場 醍醐いきいき市民活動センター
友愛ひろば
〒601-1345 京都市伏見区醍醐外山街道町21-21
縁日
子ども遊び場ブース
エコ体験ブース
各種ワークショップ
屋台
焼きそば
焼き鳥・焼きおにぎり
かき氷・フランクフルト
ホルモン・缶ビール
カラフルゼリーポンチ
ラムネ
その他
ステージ
ダンス
音楽演奏
盆踊り
ビンゴ大会
お問合せ
醍醐いきいき市民活動センター
075-571-0035
FAX 075-573-5224
〒601-1345
京都市伏見区醍醐外山街道町21-21
開館時間：月・水～土 10時～21時
日 10時～17時
＊火曜日休館
主催
だいご夢もり秋祭り実行委員会
協力（順不同）

④「醍醐いきいきフェスティバル」

事業の概要
1　開催日時：令和 7 年 12 月 7 日(日)13 時～16 時
2　開催場所：京都市立春日野小学校体育館
3　参加人数：250 名
4　協力団体等：はざまカフェ、京都市だいご学園、L ガーデン

1　事業内容
醍醐いきセンで活動しているサークルの活動発表会を、初めて地域の小学校で開催した。いきセンの事業として活動している「はざまカフェ」に乳幼児向けのプレイコーナーを担当してもらった。地域で園芸療法を進めたい方に草木を使ったクリスマスのリースづくりのワークショップを担当してもらった。京都市だいご学園にカフェブースをお願いしゆっくりとフェスティバルを楽しんでもらえる雰囲気にした。

2　準備段階での工夫
会場をいきセンからすぐ近くの小学校の体育館を借り、本格的なステージ発表をすることが出来た。

3　事業実施による効果・達成度
（1）当初の事業効果，目標等
新たな活動への参画や団体間の連携が生まれることおよび多様な来場者にきていただく。

（2）事業実施による目標の達成度
出演者・出店者アンケートの結果、「大変満足」「満足」を合わせると目標を大幅に上回る高い評価を得ることができた。
普段小学校のステージで発表する機会がないので、過去最高の出演者数だった。
「多くの観客の前で披露でき、活動の励みになった」「他の団体の発表を見ることで刺激を受けた」 との声があった。発表会に向けた練習のため、サークルの活動時間が増えたことで、貸館の稼働率が向上した。

4　今後の抱負
体育館という事で子どもたちが思いっきり楽しめる半面、静かな音楽や朗読の時に声が聞こえないなどの声があったので次回は、音量や配置を工夫して参加者も出演者も楽しめるようにしたい。

事業風景の写真

京都市
入場は無料です！
醍醐いきいきフェスティバル
醍醐いきセンで活動している
サークルの発表会です♪
楽しい遊びブース・カフェブースあり♪
みなさんで遊びに来て下さい！
2025 12.7 (Sun)
春日野小学校
in体育館
13:00・16:00
16組が集合予定！
【開催場所】
京都市立春日野小学校
〒601-1425
京都市伏見区日野岡中町31
醍醐いきセンから徒歩1分
【主催・お問合せ】
醍醐いきいき高齢者活動センター
075-571-0035
FAX 075-573-5224

⑤「醍醐みらいユースセンター」

事業の概要
1　開催日時：令和７年５月～令和８年３月
　　毎月第２金曜日・第４月曜日　各 16 時 30 分～20 時
2　開催場所：醍醐いきいき市民活動センターサロン、集会室
3　参加人数：延べ 84 名
4　協力団体等：京都市ユースサービス協会、体験型子ども食堂みらい食堂、京都橘大学

1　事業内容
地域におけるユース世代（主に中学生）の居場所不足に対応するため、市民活動センターのサロンを活用し、月 2 回の頻度で「ユース世代の居場所づくり」を実施した。参加するユース世代が安心して過ごせるよう、e-スポーツコーナー、ボードゲーム、自習スペースなどのコンテンツを用意した。
さらに、子ども食堂との共催により、毎回 100 円カフェを開催し軽食を提供した。
また、月 2 回のうち 1 回は、卓球の日や醍醐若者食堂も実施し、温かみのある居場所づくりを提供した。

2　準備段階での工夫
みらい食堂のスタッフが駄菓子屋を出店しながら見守りを行い、カレーや鍋を囲む食育企画も実施。また地域活動をしている企業で結成している「ユニーク美化クラブ」と協力した夜間の清掃活動など、企業や地域団体と若者を繋ぐ機会を創出した。

3　事業実施による効果・達成度
（1）当初の事業効果，目標等
中高生が「ここにいていい」と思える心理的安全性の確保、および地域活動への参画を通じた自己肯定感の向上。

（2）事業実施による目標の達成度
当初は「広場に集まる行き場のない子たち」という側面があったが、センター内へ誘導したことで、落ち着いて過ごせる空間を提供できた。また、センター主催の「秋祭り」でユースの若者が駄菓子屋の屋台を手伝うなど、単なる利用者から「運営の協力者」へと変化が見られた。清掃活動を通じ「俺らええことしてるやん」という発言が出るなど、地域への帰属意識が高まったことは大きな成果と言える。

4　今後の抱負
今年度は「居場所」の提供から始まり、地域活動への「参画」へとステップアップすることができた。今後は、若者たちが自ら企画を立案・運営する「ユース運営会議」のような仕組みをさらに強化したい。また、中高生と地域の大人が自然に交流できる機会（多世代交流プロジェクト）を継続的に設け、若者の柔軟な発想を軸とした、より活力ある醍醐地域のコミュニティづくりを推進していきたい。

事業風景の写真

京都市
ユース対象
フリースペースオープン！
#ボードゲーム
#卓球
#お菓子づくり
#クラフト
醍醐みらい
ユースセンター
Please come
醍醐いきいき市民活動センターサロンを
自習室・多目的室として使えます！
#漫画
#わたあめづくり
#自習
#テレビゲーム
対　象：中学生～30歳
参加費：無料（カフェ有料）
申込不要・出入自由
マスコットキャラクター
ミラユメちゃん
みんなでつくる
自分達の居場所
ここに集まれ！
2025.6月～
2026.3月
毎月/
第2金曜日
第4月曜日
17:00-20:00
最新情報は
SNSをチェック
誕生日会（年4回程度）
開催月にお誕生日を
迎えた人を祝います♪
みらい紹介コーナー
駄菓子＆ジュース
100円
自習（常に開催中）
みんなで卓球も
出来るよ♪
お問合せ：京都市醍醐いきいき市民活動センター　主催：醍醐みらいユースセンター実行委員会
〒601-1345 京都市醍醐外山街道町21-21
開館時間 月～土10時～21時 日10時～17時　休館日休館

⑥「お花見交流会」

事業の概要
1　開催日時：令和７年４月５日（土）11 時～15 時
2　開催場所：醍醐いきいき市民活動センター横サロン
3　参加人数：30 名
4　協力団体等：体験型子ども食堂みらい食堂

1　事業内容
醍醐いきセンのサロンのお庭で、地域住民やいきセン利用団体・サークル利用者を対象にしたお花見交流会を開催した。イベント中は自由に出入り可能とし、参加費は無料。いきセン利用団体による演奏会（12 時～13 時）、昨年度のいきセン事業を振り返る動画上映、飲食販売（子ども食堂担当）。サロンの利活用のアンケートを実施した。

2　準備段階での工夫
今年は飲食を子ども食堂に担当してもらったので、スタッフが参加者とゆっくり話ができる仕組みづくりを行った。

3　事業実施による効果・達成度
（1）　当初の事業効果，目標等
いきセン利用団体間の交流促進をし、醍醐いきセンの活動を周知してもらう。地域の居場所づくりの一環としての「サロン」の活用をする。

（2）事業実施による目標の達成度
事業関係者といきセン利用団体間の交流促進ができた。
動画上映により、普段事業に参加しない方にもセンターの活動内容が伝わり、新たな関心を得るきっかけとなった。演奏会を通じた文化的交流も実現し、参加者の満足度も高かった。
地域の居場所づくりの一環としての「サロン」の活用地域住民の参加率やリピート参加者の数から見て、地域交流の促進という面では目標を十分に達成しました。アンケートからサロンの新たな活用の要望も沢山いただいた。
交流会の後にはいきセンの核（ファン）となる関係者の懇親会を行いより深くつながることができた。懇親会は子ども食堂に飲食を担ってもらい活動資金を得るきっかけとなった。

4　今後の抱負
混雑時にサロンが手狭に感じられたため、導線の整理や座席配置の工夫が必要であるが、参加者さんからは満足度の高いお声をいただき来年度も実施する予定。

事業風景の写真

今年もみんなでわいわい
お花見を楽しみましょう！
お花見
交流会
4/5
11:00-15:00
参加費:無料（飲食は別途有料）　申込不要
FOOD&DRINK
主催・お問合せ：京都市醍醐いきいき市民活動センター
（指定管理　株式会社ワンダーワールド）
電話　：075-571-0055
FAX　：075-573-5224
開館時間：月～土　10時～21時　日　10時～17時
休館日
内容は変更になる場合があります

⑦「連携事業」

事業の概要

「辰巳保育所夏祭り」

1　開催日時：令和 7 年 7 月 18 日 16 時～17 時

2　開催場所：辰巳保育所

3　参加人数：延べ 60 名

4　協力団体等：辰巳保育所、はざまカフェ

内容：辰巳保育所の在園時、地域の親子向けに夏祭りを開催。醍醐いきセンとはざまカフェで手作りコーナーを担当。子育て層にセンターを周知した。

効果：地域の親子が安心して参加できる交流の場となり、保育所と地域のつながりを強化することができた。いきセンの手作りコーナーは親子のふれあいを促進し、参加者の満足度も高かった。

「つながるプラットフォームミーティング」

1　開催日時：①令和 7 年 9 月 5 日 18 時 30 分～20 時
　　②令和 7 年 11 月 26 日 13 時 30 分～15 時 30 分
　　③令和 8 年 3 月 19 日 18 時 30 分～20 時

2　開催場所：醍醐支所

3　参加人数：延べ 150 名

4　協力団体等：醍醐支所健康長寿推進課、社会福祉協議会醍醐分室、京都市協働コーディネーター

内容：重層的支援の一環として地域において多様な主体が出会いまなび合う場「つながるプラットフォーム」の開催。コアメンバーとして参加し福祉だけでなくまちづくり団体なども混ざり合う交流の場を提供した。

「meetusLabo」

1　開催日時：令和 7 年 12 月 13 日 14 日 11 時～16 時

2　開催場所：パセオ・ダイゴローアトリウム及び緑道

3　参加人数：延べ 150 名

4　協力団体等：京都市

内容：パセオ・ダイゴロ―を使った社会実験。醍醐いきセンブースとして子育て層の声を聞いたり広報を行った。

効果：子育て層のニーズを直接聞き取る貴重な機会となり、いきセンの情報発信・広報活動にも有効であった。商業施設を活用した実験的な取組が、新たな地域連携の可能性を示した。

「醍醐まちづくりカフェ」

1　開催日時：①令和 7 年 9 月 20 日 13 時～15 時
　　②令和 7 年 11 月 8 日 14 時～16 時
　　③令和 8 年 3 月 13 日 16 時～18 時

2　開催場所：①パセオ・ダイゴローアトリウム
　　②折戸公園
　　③醍醐支所会議室

3　参加人数：延べ 100 名

4　協力団体等：伏見区役所醍醐支所

内容：まちづくり団体と行政との交流の場として、いきセンは場の進行として参加した。

効果：行政とまちづくり団体がフラットに交流できる場を提供し、協働のきっかけづくりにつながった。いきセンが企画、進行を担うことで、様々な団体や個人と繋がり新しい協働が生まれた。結果、醍醐地域のまちづくりに関わる関係人口が増えた。

「春日野小学校フレンズゲームラリー」

1　開催日時：令和 8 年 2 月 25 日 9 時～10 時

2　開催場所：春日野小学校体育館

3　参加人数：延べ 200 名

4　協力団体等：京都市立春日野小学校

内容：春日野小学校の学校の取り組みに参加。醍醐いきセンブースとして子どもたちの楽しめるブースを開催した。

効果：いきセンを知らない子どもたちと顔の見える第一歩として楽しみながらいきセンを知ってもらえた。子どもたちの交流と主体性を育む機会となり、学校と地域をつなぐ取組として保護者・教職員からも好評を得た。いきセンの地域連携の一環として、教育分野との協力体制を強化した。

「醍醐子育てオープンデイ」

1　開催日時：令和 8 年 2 月 22 日 11 時～15 時

2　開催場所：醍醐支所全館

3　参加人数：延べ 1200 名

4　協力団体等：伏見区役所醍醐支所

内容：支所という公的施設を「親子で楽しめる場」として開放し、子育て層に向けたイベントを開催した。

効果：もともといきセンの単独事業であった「ゆめプレゼンテーション」では子どもが夢を話し、区長や若い起業家が応援することで、夢を語っても恥ずかしくないと言う自己肯定感をあげる経験をしてもらった。また地域の小学校の総合学習発表「醍醐のまちについて」を通じて、子どもたちの自己表現の場を創出した 。子ども食堂や地域福祉団体、企業、大学、市民活動団体との連携により、それぞれの得意を活かしたブース出店をしてもらい、来場者に楽しんでもらうだけでなく、出店者同士もつながることが出来て、アンケートの満足度も高かった。本事業の成果は、地域団体が一体となり、一つの大きな目標に向かって「共創」した点にある。いきセンは運営から関わり、様々な団体をコーディネートすることで行政と地域の橋渡しを担うことが出来た。

「同和園さくら祭り」

1　開催日時：令和 8 年 3 月 28 日 11 時～15 時

2　開催場所：社会福祉法人同和園

3　参加人数：延べ 1,000 名

4　協力団体等：社会福祉法人同和園、京都醍醐北郵便局、京都福祉サービス協会醍醐事務所、京都橘大学、京都市だいご学園、京都市やましな学園、三笑堂、すばる醍醐、たのしい家醍醐、醍醐の家ほっこり、TACOSBOX、つばさクラブ少年団、社会福祉法人やましなの里、POLA LEI　SALPN、ヒノリーノ、宝生苑、メナード、食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会（みらい食堂）

内容：社会福祉法人同和園にてさくら祭りを開催し、いきセンは共催としてブースを出店した。

効果：市民活動の相談コーナーを設けて、いきセンとしての役割を果たすことが出来た。

高齢者施設における地域開放イベントとして、住民との交流を深める場となった。世代間交流の促進に寄与し、福祉と地域活動の橋渡し役としての意義を発揮した。

今年度の「だいご未来プロジェクト」では、気軽に立ち寄れる「ふらっと相談カフェ」から、地域のつながりを深める「井戸端会議」、そして多世代が盛り上がった「秋祭り」「いきいきフェスティバル」など、多様なアプローチで市民活動の支援と活性化に取り組んだ。

特に「みらいユースセンター」や「お花見交流会」、各種「連携事業」を通じて、若者からシニアまで幅広い世代の交流が生まれ、サロンを中心とした地域コミュニティの基盤が一段と強まったと感じる。

今回の成果と見えてきた課題を活かし、今後も誰もが主体的に関われる持続可能な地域づくりをいきいき市民活動センターとして進めていきたい。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】文化サロンづくり「みんなのアトリエ」（サロン運営・活用事業）

① まちかど美術館

② カルチャースペース（A 尊鉢さんのギターで歌おう！B書き方教室C月替わりサロンー「はじまるサロン」、「ブック＆レコードサロン」）

③ はざまカフェ

事業の概要

１　開 催 日 時：

① 令和７年４月～令和８年３月

② A令和７年６月～令和８年２月（毎月第２木曜 13時～15時　計９回）

令和７年6/12、７/10、8/14、9/11、10/9、11/13、12/11、令和８年1/8、2/12

B令和７年６月～令和８年２月（毎月第1、第３水曜 13時～15時　計18回）

令和７年6/4、6/18、７/2、７/16、8/6、8/20、9/3、9/17、10/１、10/15、

11/5、11/19、12/3、12/17、

令和８年1/7、1/21、2/4、2/18

C令和７年６月～令和８年２月（毎月第３土曜 14時～16時 計９回）

令和７年6/20、7/19、8/16、9/20、10/18、11/15、12/20、令和８年1/17、2/21

③ 令和７年 5/20（火）10時～11時 30分、7/11（金）10時 30分～13時

7/18（金）15時 45分～16時 50分、8/11（月）12時～15時、

9/27（土）16時～20時、10/7（火）10時～11時 30分、

11/8（土）14時～16時、11/29（土）9時 30分～12時、

12/7（日）13時～16時、12/13（土）10時 30分～13時 30分

12/14（日）11時～16時、12/21（日）10時～15時

令和８年 2/22（日）10時～15時、3/8（日）10時～12時

2　開催場所：　①～③　サロン「おいない」
※③→サロン「おいない」以外の開催については、以下のとおり。
醍醐支所（a g n）、醍醐和光寮（b）、辰巳保育所（d）、折戸公園（h）
醍醐図書館（i）、春日野小学校（j）、パセオダイゴロ（k l）京都橘大学（l）、カフェ＆デリーヒノリーノ（m）、醍醐中央図書館（o）

3　参加人数：①延べ 748 名　②A 計 47 名　B 計 37 名　C 計 72 名
③計 127 名（イベント出店を除く）

4 協力団体　①春日丘センター③京都市、醍醐支所、醍醐和光寮、辰巳保育所、京都橘大学カフェ＆デリーヒノリーノ、醍醐図書館、醍醐中央図書館

5 予算：　2,072,200 円　／　決算：　1,849,867 円

① まちかど美術館

1　事業内容

地域の高齢者施設「春日丘センター」の利用者が作成した手作り作品を展示した。

2　準備段階での工夫

春日丘センターは近隣の施設であり、日常からセンターのスタッフとコミュニケーションをとっているため、スムーズに展示することができた。

3　事業実施による効果・達成度

（1）　当初の事業効果、目標等

近くにある高齢者施設の利用者の手作り作品を展示することで、地域間交流を図ることを目標にした。

（2）　事業実施による目的の達成度

春日丘センターのスタッフの減少や利用者の高齢化により、前年度と比べると展示の頻度が少なくなった。

4　今後の抱負

今後、展示の頻度が少なくなることが予想される。無理のない範囲で地域間交流を図っていきたい。

事業風景の写真

①　「まちかど美術館」

② A 尊鉢さんのギターで歌おう！

1　事業内容

尊鉢さんのギター演奏で参加者が懐かしい歌を歌ったり、ゆっくりおしゃべりする場をつくった。

2　準備段階での工夫

歌集を用意して、参加者に使用してもらっている。

3　事業実施による効果・達成度

（1）　当初の事業効果、目標等

参加者がみんなで歌を歌いおしゃべりすることによって、参加者が交流して楽しむ場をつくることを目標にした。

（2）　事業実施による目標の達成度

口コミ効果もあり、参加人数が少しずつではあるが増えている。

○参加者の反応

参加者にとって心安らぐ時間になっており、リピーターも多い。参加者の満足度は高い。

4　今後の抱負

参加者が歌える歌を増やすために、今ある歌集をさらに充実させたい。

事業風景の写真

② A「尊鉢さんのギターで歌おう！」

②B 書き方教室

1　事業内容

いきセンのスタッフと一緒に気軽に「書」の時間を楽しみ、ゆったりする場をつくった。

2　準備段階での工夫

筆や墨、半紙など必要なものは、すべていきセンで用意した。参加者の方が気軽に参加できるようにした。月 2 回開催で月毎にお手本を変えて、参加者に配布した。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

いきセンのスタッフと一緒に気軽に「書」の時間を楽しむ場をつくることを目標にした。

（2）事業実施による目標の達成度

気軽に「書」ができる場があることが参加者から喜ばれている。

〇参加者の反応

マイペースで書ができることがいいという声を聴いている。

4　今後の抱負

好評につき次年度も実施を予定している。次年度も参加費を有料（実費徴収）としたい。

事業風景の写真

② B「書き方教室」

②C 月替わりサロン（「はじまるサロン」、「ブック＆レコードサロン」

1　事業内容

「はじまるサロン」と「ブック＆レコードサロン」のどちらかを月替わりで開催する。

「はじまるサロン」、は、ゲストスピーカーをお呼びして、あるテーマに沿って参加者全員でフリートークを行う。

「ブック＆レコードサロン」は、参加者によるお勧めの本と音楽（レコード、CD 他）の紹介の場。参加者同士でおしゃべりをして交流する。

2　準備段階での工夫

サロン事業全体のチラシを小冊子として春先に一括で作成し広報を行った。「月替わりサロン」は毎月 1 回の開催で年間 9 回開催したが、個々のチラシは作成せずに SNS で直前広報して集客を行った。

3　事業実施による効果・達成度

(1)　当初の事業効果、目標等

若い人たちの問題意識や関心事をトピックとして取り上げ、幅広い世代が集い、話し合い、そして交流できる場をつくる。

(2) 事業実施による目的の達成度

ゲストスピーカーが参加者と対話することにより、双方に学びや気づきがあった。

年間を通して多世代が集い、交流が図られた。参加者の満足度は高く、事業目的は達成できた。

〇参加者の反応

・ゲストスピーカーの方から参加者にプレゼンすることにより、今やっていることに自信を持つことができたという声があった。

・「若い人たちの発想や興味事にアンテナをはれる企画で面白かった。」

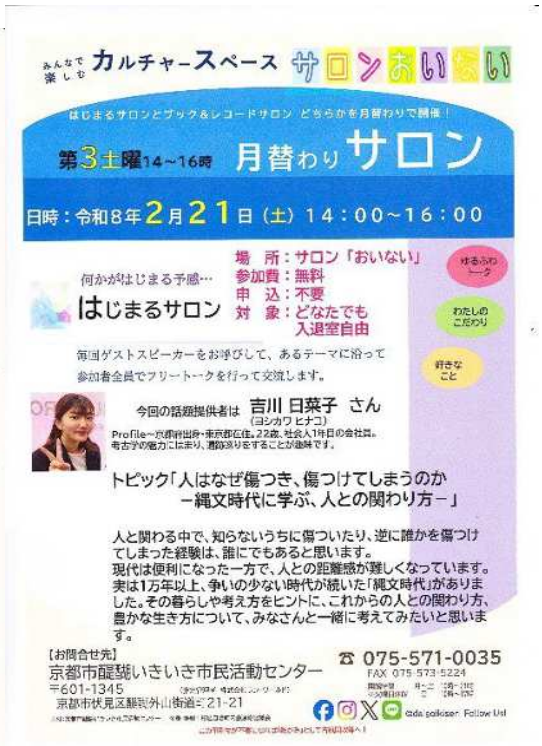
4 今後の抱負

・レコードプレイヤーの更なる活用や生演奏を行うなど、音楽による場の創出を行いたい。

・トピック設定の工夫と学びの要素を加味したい。

事業風景の写真

② C「月替わりサロン



③はざまカフェ

1　事業内容

ベビー＆キッズ用品交換会を中心として、子育て中の方がほっと一息つける企画やお子さん向けの企画を醍醐の各地で実施した。

2　準備段階での工夫

季節に合わせた子ども向けのイベント（「竹を使ったそうめん流しをしよう！」）を開催するなど親子がワクワクして参加できる企画を考えた。

3　事業実施による効果・達成度

（1）　当初の事業効果、目標等

子育て中の方がほっと一息つける企画やお子さん向けの企画を行い、地域で子育てについて気軽におしゃべりをして交流する場をつくる。

（2）　事業実施による目標の達成度

・一昨年度の地域での活動がベースになって、行政、図書館、大学および各施設でベビー＆キッズ用品交換会を開催した。
・メンバーの増強やボランティアスタッフの確保が図られ、イベント当日のスタッフ不足がある程度、解消された。
・ベビー＆キッズ用品交換会に参加された方から、ベビー用品や子ども服の提供、寄付が相次いだ。

4　今後の抱負

・来年度もベビー＆キッズ用品交換会を中心にイベントを開催する。そのイベントの中で子育て中の方の困りごとやニーズを拾い上げ、企画に反映、生かしていく。
・限られたスタッフで当日のイベントが運営できるような内容や規模を考える。

事業風景の写真
③はざまカフェ

３．利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

１　利用料金の収入実績

令和７年度実績：１，４８３，２８０円（前年度比９９％）

（内訳　会議室等：１，４２２，２００円
　　付属設備：６１，０８０円　※自主事業分を除く）

２　管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

４．施設の利用者満足度の把握

１　利用者満足度の把握状況

（１）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和７年１１月実施

【調査項目】窓口サービス

（２）センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

２　利用者満足度把握の結果

（１）全センター共通窓口サービス

満足	普通	不満	無回答	
70.1%	27.9%	0.7%	1.1%	

（２）センター独自アンケート

○概ね満足

・子どもたちの笑顔が見られたこと、来場者の方々と交流が出来たことが良かった。（醍醐いきいきフェスティバル）

・とてもためになる研修でした。（醍醐 de ワイワイ井戸端会議）

３　意見等への主な対応状況

○夏場は空調が少し暑かった

・集会室のエアコン４基のうち、１基が故障していたため修繕した。

○かがみをもっと広くしてほしい

・会議室３に鏡を設置したが、もう１台増設した。

５．指定管理者による管理運営業務の自己評価

・貸館について
利用率も大きく下がることもなく、現状を維持できている。活動発表の場があることで、一時的ではあるが利用も増えるので、いきセンの秋祭りやフェスティバルだけでなく、地域のイベントや施設と連携して、活動発表の機会を増やしていきたい。

・市民活動支援・活性化事業について
7 年度も他団体と連携して行うことが多かった。地元の若手起業家ともつながることが出来、8 年度は更に新たなジャンルでの子ども若者向け事業へと展開予定。今後もいきセンが Hub になり、様々な団体や施設とつながり、地域に根差した活動が生まれるよう、努めていきたい。

・サロン運営・活用事業について
カルチャースペースの「尊鉢さんのギターで歌おう！」「書き方教室」においては、参加者数は多くないが、高齢者の外に出るきっかけとして機能していた。「月替りサロン」では、多様なゲストスピーカーによる話題提供で、学生から高齢者まで多世代の交流を図ることができた。

・7 年度も多くの団体や施設、行政からお声かけをいただき、連携しながら事業を実施することができた。これまで以上に信頼関係が築け、8 年度はより一層地域に根ざした活動を実施し、いきセンのコアなファンを増やしていきたい。

６．その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

〇特になし

京都市醍醐いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和７年度分）

指定管理者名　株式会社ワン・ワールド

代表者名　山口　勝広

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		**15,296,150**	15,296,150	0
利用料金収入		2,640,000	1,483,280	▲ 1,156,720
	会議室等	**2,580,000**	1,422,200	▲ 1,157,800
	スモールオフィス			0
	付属設備（自主事業を除く）	**60,000**	61,080	1,080
その他収入	個別事業参加費（みんなのアトリエ）		1,500	1,500
	個別事業飲料代（だいご未来プロジェクト）		29,800	29,800
	利用団体（みらい食堂）光熱水費		1,120	1,120
				0
				0
当期収入合計		17,936,150	16,811,850	▲ 1,124,300
【支出の部】				
１．施設運営業務				
人件費		9,900,000	8,673,505	1,226,495
	職員2名	4,800,000	3,793,964	1,006,036
	非常勤職員4名	3,300,000	3,730,605	▲ 430,605
	法定福利費	1,200,000	1,035,716	164,284
	福利厚生費	600,000	113,220	486,780
光熱水費		1,512,000	1,351,770	160,230
	電気代	1,320,000	1,220,299	99,701
	ガス代	120,000	73,099	46,901
	水道代	72,000	58,372	13,628
施設管理費		991,540	994,840	▲ 3,300
	樹木剪定	110,000	55,000	55,000
	定期清掃等	55,000	132,000	▲ 77,000
	機械警備	244,200	244,200	0
	消防保守点検	63,800	63,800	0
	ＥＶ保守点検			0
	空調保守点検			0
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検			0
	自家用電気工作物	266,640	266,640	0
	雑用水用給水設備			0
	建築設備点検	159,500	140,800	18,700
	空気環境測定等			0
	廃棄物処理	92,400	92,400	0

事務費		812,660	931,795	▲ 119,135
	電話代	192,000	159,908	32,092
	事務用品	300,000	270,550	29,450
	雑費	320,660	501,337	▲ 180,677
修繕費		450,000	576,353	▲ 126,353
	サロン自動ドア修繕	450,000	32,073	417,927
	集会室エアコン修繕		511,500	▲ 511,500
	誘導灯改修		32,780	▲ 32,780
備品購入費（５万円以上の物品）				0
				0
				0
				0
租税公課				0
				0
				0
				0
その他		18,000	17,680	320
	賠償責任保険保険料	18,000	17,680	320
				0
施設運営業務支出合計		13,684,200	12,545,943	1,138,257
２．事業実施業務				
市民活動支援・活性化事業費		2,179,750	2,273,152	▲ 93,402
	だいご未来プロジェクト	2,179,750	2,273,152	▲ 93,402
				0
				0
				0
				0
サロン運営・活用事業費		2,072,200	1,849,867	222,333
	みんなのアトリエ	2,072,200	1,849,867	222,333
				0
				0
その他	事業実施業務繰越			0
事業実施業務支出合計		**4,251,950**	**4,123,019**	128,931
当期支出合計		**17,936,150**	**16,668,962**	1,267,188
当期収支差額		0	142,888	142,888

資料様式

令和７年度　事業報告書
吉祥院いきいき市民活動センター

【指定管理者：NPO 法人ふれあい吉祥院ネットワーク】

1．管理運営の状況

1　施設運営業務

（1）職員体制

センター長１名、職員５名（常勤２名、非常勤４名）

【人材育成の取組】

日常業務の中での指導や声掛けを通して、職員一人ひとりの利用者対応力の向上に取り組んでいる。

・人権フィールドワーク等に参加し、人権に関する理解を深め、その学びを日々の利用者対応や事業運営に活かしている。

・月１回のミーティングの場を設け、業務内容や課題について情報共有を行うことで円滑な施設運営につなげている。

・主催事業には職員が積極的に関わり、企画や運営を経験することで、企画力・調整力の向上を図っている。

・緊急時の対応について確認を行い、安全管理に対する意識を高めている。

（2）貸館等

ア　利用件数

（月別）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
116	124	123	127	111	112	129	130	115	101	109	145

（年間）

1442件（前年度比 104%）

イ　利用状況

○　今年度は、単発利用および定期利用のいずれも増加傾向が見られた。

平日の夜間については、ダンス系サークルや空手、事業者による定期利用が重なり利用が集中して高い稼働率となっている。

日曜日の定期利用についても増加が見られ、楽器演奏や混合などの活動での利用が広がっている。

特に、定期利用団体においては、団体利用に加えて個人レッスンとして施設を活用されるケースが増え、利用形態の多様化が進んでいる。

また、詩吟の発表会に向けた練習利用として、和室の利用が増加した。

料理室については、新規利用として、会議室を不定期に利用しているサークルが料理室の存在を知り、味噌づくりに活用したほか、口コミを通じて地域のスポーツクラブがイベントとして利用するなど、認知度が少しずつ高まってきているように感じる。

○　平日の午前中には利用に余裕がある時間帯も見られ、料理室についても利用はやや増加しているものの、十分とはいえない状況であることから、今後も利用促進に努めていきたいと考えている。特に、いきセンの中でも料理室を備えている施設は限られているため、当センターの特色を活かした取り組みを考えていく。

ウ　利用促進に向けた取組

○　来館者への直接的な周知として、事業参加者やサロン利用者に対して貸館利用の案内を実施した。館内掲示においては利用料金や活動事例を分かりやすく提示するとともに、利用相談の際には活動内容に応じた部屋・時間帯の提案を行い、新規・継続利用の促進を図った。

環境整備については、利用者の声を踏まえた改善を順次実施した。和室では隙間風による寒さ対策としてガスファンヒーターを追加設置したほか、会議室にはホワイトボードを導入し、黒板との使い分けが可能となった。料理室ではガスコンロが老朽化し使いにくいとの声があったため、新調を行ったほか、市民からの寄付により店舗で使用されていた魚焼きグリルを設置した。いずれも利用者から好評を得ている。

エ　その他

○　事業来館 1626 名（うち自由来館 365 名）

前年対比　120%（事業来館 1297 名（うち自由来館 357 名））

今年度の事業の一環として「いきセン物々交換会」を定期的に開催したことで、参加を通じてサロンの利便性や気軽に立ち寄れる環境の良さを知る利用者が増加した。また、サロン事業への参加をきっかけに交流が深まった高齢者同士が自然と集まり、折り紙を楽しみながら和やかに談笑する様子も度々見られ、参加者間の自然な交流の場として機能していることが確認できた。

（3）情報発信等

ア　取組実績

○・7 年度も引き続き、Instagram、Facebook、ホームページ、LINE 公式アカウント等の SNS を活用し、事業開催前の周知および開催後の様子発信を継続的に行った。

・利用者の発表の場である「ふれあいひろば」においては、チラシに昨年度の開催状況を動画で閲覧できる QR コードを掲載し、来場者が具体的なイメージを持てるよう工夫した。

・近隣の教育機関に対しては職員が直接訪問しチラシを配布することで、対面による周知と参加の呼びかけを実施した。

・来館者や事業参加者に積極的に声をかけた。

イ　取組の効果

○　これらの取り組みにより、市民活動に対する関心の高まりや、センターへの問いあわせの増加など、一定の効果が見られた。

「ふれあいひろば」の来場者は昨年度と比較して大幅に増加し、来場者が市民活動団体の発表を直接目にすることで活動内容への理解が深まり、参加希望や活動に関する相談が寄せられた。

団体同士の交流も生まれ、新たな事業の検討や今後の連携につながる動きも見られた。対面での周知により、事業内容を直接説明できたことが、参加者の増加につながったものと考える。

（4）管理運営

○・電気工作物点検

・貯水槽清掃
・消防委設備の保守点検
・会議室1・2、廊下のワックスがけ
・植栽等、高木に関しては剪定業者に依頼
・草花の植栽や手入れ、雑草抜き

外部業者に委託

・日常的に、館内及びサロンの点検・清掃　等を実施

（5）その他

○・各事業実施後にできるだけ

アンケートを取り、参加者の意見や満足度の把握に努めた。

アンケートでは、事業内容に対する評価だけでなく、次回開催に向けた改善点や、市民が今後実施してほしい具体的な事業内容やテーマについての要望を収集し、次回以降の事業企画に活かしている。

・利用者が快適に過ごせる環境整備の一環として、これまで扇風機しかなかった別館サロンのロビーにエアコンを設置した。

その結果、夏場でも快適に利用できる空間となり、サロンで休憩して帰る来館者も増えた。

また、サロンでの事業開催においても、スペースを広く活用できるようになり、より多くの来館者を受け入れることが可能になった。

2．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】吉祥院六斎念仏保存活動支援事業（サロン運営・活性事業）

① 指導者の育成支援

② 運営委員支援

③ 後継者育成支援（ア．六斎工作教室　イ．六斎総合学習　ウ．伝えようプロジェクト）

④ 情報発信・広報支援

⑤ 施設設備

事業の概要

1　開催日時：①令和7年4月～令和8年3月（全10回）19時～21時

②令和7年4月～令和8年3月（全7回）

③ア）令和7年7月26日(土)　10時30分～12時30分

イ）令和8年1月19日(月)　10時30分～12時

ウ）令和7年4月～令和8年3月　第2・4金曜日　19時～21時（全30回）

④・鑑賞会：令和7年4月～令和8年3月

・SNS発信：随時（年間10回程度）

⑤・六斎資料コーナー：令和7年4月～令和8年3月　随時

2　開催場所：①②吉祥院いきいき市民活動センター別館サロン

③　吉祥院いきいき市民活動センター別館サロン、六斎資料室、会議室1

④　撮影：吉祥院天満宮（4月25日、8月25日）

梅小路公園（11月2日　京都青年中央会祭）

⑤　吉祥院いきいき市民活動センター別館サロン、六斎資料室

3　参加人数：①10名（六斎保存会）

②5名（六斎保存会）

③ア）17名

イ）80名

ウ）各回5名

④再生回数約1500回

⑤約100名（サロン来館者）

4　協力団体等：吉祥院六斎保存会・吉祥院小学校

5　予算：　867,000円　／　決算：　792,912円

1　事業内容

①　指導者の育成支援

獅子舞の構造や動きを記録するため、獅子舞の内部の様子を撮影し、今後の教材づくりに活用できる素材を整えた。

指導者がいつでも学び直せるように、その成果を生かせる環境を整えた。

②　運営委員支援

保存会との会議を設け、来期の活動方針や課題について主に意見交換し、円滑な運営に向けた支援を行った。

③　後継者育成支援

子どもや、地域住民を対象とした体験・学習の機会を設けた。

夏休みには工作教室を開催し、六斎で使用する四つ太鼓を廃材で制作し、六斎の歴史や太鼓の叩き方を学ぶ機会を提供した。

吉祥院小学校3年生を対象に総合学習を実施し、資料室見学や獅子舞の見学、太鼓体験を保存会メンバーによる実演などを通して理解を深めてもらった。さらに、かつて子ども六斎に関わっていた方へ声をかけ、指導者として関わってもらえるよう働きかけた。

④　情報発信・広報支援

吉祥院天満宮での奉納や京都青年中央祭の様子を動画で記録し、YouTubeで公開するとともに、InstagramやFacebookを活用して講演や活動情報の発信を行った。

⑤　施設設備

別館サロンに保管されている写真や衣装、資料を整理し、資料室の展示内容を更新することで、来館者がより理解しやすい環境づくりを進めた。

2　準備段階での工夫

①　指導者の育成支援

教材づくりでは、単なる記録にとどまらず、指導時に活用しやすいよう視点や構成を工夫して撮影した。

②　運営委員支援

限られた時間の中ではあったが具体的な方向性が見えるよう工夫した。

③　後継者育成支援

子どもたちが楽しみながら理解できるよう、見る・作る・体験する複数の要素を組み合わせた内容とした。

④　情報発信・広報支援

活動の魅力が伝わる場面を意識して記録・発信を行い、より多くの人に関心を持ってもらえるよう工夫した。

⑤　施設設備

来館者目線で展示内容や配置を見直し、見やすさ、分かりやすさを重視した。

○他センターにはない独自の広報の工夫などがあれば記載してください。

地域団体のイベントやふれあいひろばに参加し、子ども六斎の演目を披露する機会を設けた。各会場で吉祥院六斎念仏のInstagramのQRコードを掲示し、来場者の方に気軽にフォローしていただけるよう工夫した。

3　事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果，目標等

吉祥院六斎念仏の保存・継承を図るため、指導者の育成運営体制の強化・後継者の確保地域への認知拡大を主な目標としていた。また、体験や学習を通じて、子どもたちや地域住民が六斎に親しみを持つきっかけづくりを目指した。

(2) 事業実施による目標の達成度

各取り組みを通じて、一定の成果が得られたと考える。教材づくりでは、今後の指導に活用できる資料の基盤を整えることができた。運営面でも委員会を通じて来期に向けた方向性の共有が進んだ。　工作教室や総合学習を通じて、子どもたちが六斎に触れる機会を創出でき、興味や理解の向上につながり、2~3 名ではあるが子ども六斎の練習に参加者が増えた。吉祥院天満宮春・夏の大祭での奉納の様子や演目ごとに編集したダイジェスト動画は、伝統芸能に関心をもつ方々から好評を得た。映像として発信することで、吉祥院六斎念仏の認知度向上と魅力の発信につながった。また、六斎保存会自身の Instagram のフォロワーも年間で 30 名ほど増え続けている。

記録映像として残すことで、後継者育成の今後の活動資料として活用できた。

特に今年度は若手育成の面で大きな前進があり、これまで 25 年以上にわたって獅子舞を支えてきたベテラン 2 名から若手への引継ぎが実現し、2 体ある獅子舞のうち主となる 1 体を若手が担う体制へと移行した。長年の経験と技術をもつベテランの存在は引き続き重要だが、今回の世代交代は、継続的な発展に向けた大きな一歩となった。

4　今後の抱負

これまで作成してきた教材や記録を活用し、指導内容の見える化を進め、誰もが関われる環境づくりに取り組んでいく。情報共有と意見交換を継続し、無理のない運営体制につなげたい。

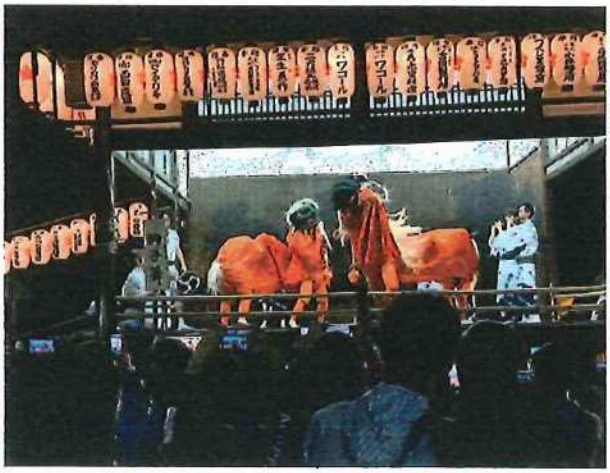
これまでの体験事業や学習の機会を活かし、子どもたちや若い世代が継続して関われる仕組みづくりを進める。来期には洛南中学校と連携し、道徳学習の一環として六斎の歴史や文化を伝える機会を設け、次世代の継承につなげていく。

今後も情報発信を継続しながら、活動の魅力を広く伝えていきたい。

●六斎工作教室●

●子ども六斎練習風景●

●吉祥院天満宮奉納●



●六斎総合学習●

【事業名】地域課題及び人材育成事業（市民活動支援・活性化事業）

① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

（ア 実行委員会　イ 第25回吉祥院ふれあいジャンボリー）

② 吉祥院トーク

（ア 会議　イ 植物採集　ウ 標本づくり　エ 昔遊び・風呂敷包み）

③ いきセン講座：南青少年活動センター主催オンラインセミナーのパブリック会場として共催

ア「10代の若者と向き合う支援者の実践的な包括的性教育」

イ　若年女性たちのリアルと支援～アウトリーチ活動の現状と課題～

ウ　自死予防の研究と実践の現在地～子ども若者のSOSを地球で受け止める～

事業の概要

1　開催日時：①ふれあいジャンボリー自立に向けた支援

ア）令和7年5月19日(月)・7月14日(月)・9月11日(月)・10月6日(月)
12月8日(月)・　令和8年3月23日(月)　19時～20時30分

イ）令和7年10月18日(土)　9時45分～14時

②吉祥院トーク

ア）令和7年6月18日(金)・9月29日(土)・11月17日(水)
令和8年3月23日(月)　19時～20時

イ）令和7年7月27日(日)　8時～9時

ウ）令和7年8月3日(日)　8時～9時

エ）令和7年12月14日(日)　11時～15時

③いきセン講座

ア）令和7年8月8日(金)　13時～15時

イ）令和7年12月18日(木)　13時～15時

ウ）令和8年3月9日(月)　13時～15時

2　開催場所：①ア）吉祥院いきいき市民活動センター　会議室1

イ）吉祥院小学校

②ア）モンテ豆茂

イ、ウ）吉祥院小学校

③ア）吉祥院いきいき市民活動センター別館サロン

イ、ウ）吉祥院いきいき市民活動センター会議室2

3　参加人数：①ア）各回約30名

イ）約500名

②ア）各回4～8名

イ、ウ）各30名

③ア、イ、ウ）各回3名

4　協力団体等：吉祥院小学校・吉祥院小学校PTA・洛南中学校・青い空保育園・
市政協力委員会・吉祥院社会福祉協議会・吉祥院小学校おやじの会
六斎保存会・吉祥院児童館・自主防災会・吉祥院少年補導委員会
吉祥院防犯推進委員会　南青少年活動センター　等

5　予算：　840,000円　　／　決算：　821,507円

1　事業内容

① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

吉祥院ふれあいジャンボリー実行委員会の自走化を目指し、運営体制や運営資金の整備を進める。

今後の支援のあり方について実行委員会の理解を深めるための支援を行う。

本事業は4年間の集大成として位置づけられ、本年度が最終年度となる。

② 吉祥院トーク

地域のまちづくりに関心のある人材を発掘し、地域の活性化につなげていくことを目的とする。地域住民との会議や対話を重ねる中で出たアイデアをもとに、今年度は身近な自然や地域資源に目を向けた取り組みを行った。

吉祥院小学校に生えている草花を採集し、それらを押し花にして標本づくりに挑戦した。

また、「ふれあいひろば」では、昔遊びや風呂敷包み体験のブースを担当し、

いきセン利用者や地域の方々と交流する機会を設けた。

③ いきセン講座

南青少年活動センターが主催するオンラインセミナーを、当センターにおいてパブリックビューイング会場として共催する形で実施。

オンライン配信を活用しながら、地域の支援者や関心のある市民を集い、学びと気づきを共有する場づくりを行った。

2　準備段階での工夫

① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

・役割の見える化、分担の工夫

各団体の特性や実情（年齢層や活動状況など）を踏まえ、それぞれが無理なく担える役割を整理し、明確化した。

・マニュアル、ノウハウの整理

過去の運営内容を記録として整理・蓄積するとともに、チェックリストや進行スケジュールを作成し、円滑に運営に携われるよう資料の整備を行った。

・資金面の安定化の工夫

収支の見える化に向けて予算書、決算書を整備するとともに、協賛や寄付、地域との連携についても検討を進めた。また、無理のない開催規模設定をすることで、継続しやすい運営を意識した。

・段階的な権限移行

徐々に実行委員会が主体となる運営へ移行した。会議の進行や意思決定も委員会に委ねるようにし、適切なタイミングで「見守り」へと関わり方を切り替えることを意識した。最終年度であることを踏まえ、特に重要な取り組みとして進めた。

・振り返りと改善の仕組み

定期的な会議を通じて課題の共有を行い、小さな取り組みを重ねながら改善を図った。

・各団体同士の関係づくりを大切にした。

② 吉祥院トーク

・ 活動を進めるにあたり、地域住民同士の意見交換を大切にし、自由にアイデアを出せる雰囲気づくりを意識した。

・ 丁寧に声を拾いあげ、具体的な活動へ落とし込むことで、より地域に根ざした内容となるよう工夫した。植物採集・標本づくりについては、安全面や作業のしやすさに配慮し、子どもたちが多く参加できるよう夏休みに小学校で実施。暑さも考えて開催時間を早めるなどの工夫をしながら準備を進めた。

③ いきセン講座

センターがパブリックビューイング会場となることで、個人では参加が難しい方にも学びの機会を提供した。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果，目標等

① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

今年度は、4 年間の取り組みの集大成として、地域の力で自立的に継続していくための体制を確立することを目的としている。特定の人に負担がかからない持続可能な運営へとつなげていく。

② 吉祥院トーク

地域の自然や文化に親しみながら、その魅力に気付いてもらうことを目的として取り組んだ。子どもたちを中心に、地域の方々との交流の機会を大切にしながら、草花の採集や押し花づくりといった体験を通して、身近な自然に触れるきっかけをつくることを目標とした。また、「ふれあいひろば」では昔遊びや風呂敷包みなどの日本の文化に触れる体験の場を設け、世代を超えた交流や文化への関心を深めてもらうことを目標とした。

③ いきセン講座

若者支援に関する知識の普及や、支援者同士の学びあい、地域における課題意識の共有を主な目標とした。

(2) 事業実施による目標の達成度

① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

各団体がそれぞれの得意なことを活かし、無理のない範囲で役割を担いながら、みんなで主体的に関わる体制が少しずつ整ってきた。そうした積み重ねの中で、実行委員会としての運営力も着実に高まってきたように感じる。

また、今年度は特に、PTA をはじめ各種団体のみなさんと、これまで当センターが主体となって進めてきたことも一緒に取り組む場面が増え、連携しながら進めていく体制がより深まった一年となった。

運営に必要な知識やノウハウも少しずつ蓄積され、継続的に活動していくための仕組みづくりにもつながった。

事務局(とりまとめ)については、4 年間の取り組みを経て、当センターに代わり、地域の団体が主体的に担ってくださることとなった。会議の場だけでなく、日常的なやり取りの中でも何度も話し合いを重ね、調整が難しい場面もあったが、最終的にはみなさんが納得できる形で方向性をまとめることができた。4年間の取り組みの積み重ねが実を結び、実行委員会が主体となって運営を担う体制へと移行することができた。

② 吉祥院トーク

事業を通して、参加者が地域の自然や文化に対して親しみを感じる様子が見られ、当初の目的に近づくことができた。草花の採集や押し花づくりでは、「学校にも色々な花が咲いていた、今まで気付かなかった」という声が聞かれ、子どもたちにとって印象に残る体験となったようであった。また、自分で選んで採集した草花を使い、嬉しそうに押し花を楽しむ姿が見られた。

「ふれあいひろば」での出展では、多くの方に参加いただき、昔遊びや風呂敷の新しい使い方に驚く声もあり、自然と会話が生まれるなど、世代を超えたあたたかい交流の場となった。全体として、無理なく楽しく取り組みながら、目標に沿った成果を得ることができた。

③ いきセン講座

参加者からは、具体的で実践に結び付く内容が多かったことから、日々の活動に活かせる気づきが得られたとの声が聞かれ、地域の課題を自分ごととして捉えるきっかけにもつながった。当初の目標に対して一定の達成が得られたと考える。

4 今後の抱負

① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

今後は、実行委員会主体での運営体制のもと、継続的に活動が展開されていくことを期待する。また、無理のない運営を続けながら、世代交代や新たな担い手の参加が進み、地域とのつながりを大切にしたイベントとして、今後も発展していくことを願う。

② 吉祥院トーク

今回の活動で得た繋がりや経験を生かし、より多くの人が関われる取組へと発展させていくとともに、地域の魅力を再発見できるような活動を継続していきたい。

③ いきセン講座

より多くの方に参加していただけるよう周知に力を入れる。参加者が固定化しないよう新規参加者の呼び込みにも取り組み、参加人数の拡大を図っていく。

ジャンボリー会議

前日準備

吉祥院ふれあいジャンボリー

吉祥院トーク

植物採集・標本作り

いきセン講座

【事業名】市民活動スタートアップ・活性化支援事業（市民活動支援・活性化事業

① サークル活動立ち上げ支援（ア 音楽サークル　イ ストレッチ同好会　ウ 沖縄空手）

② ふれあいひろば（ア ふれあいひろば交流会　イ ふれあいひろば　ウ みんなの文化祭）

③ いきセン講座

事業の概要

1　開催日時：①サークル活動立ち上げ支援

ア）令和7年4月5日(土)、5月17日(土)、6月7日(土)、7月5日(土)
9月6日(土)　13時～14時

イ）毎月第1、第3月曜日　※祝日は休み
令和7年4月7日 21日、5月19日、6月2日 16日、7月7日
8月4日、9月1日、10月6日、11月17日、12月1日 15日
令和8年1月5日、2月2日 16日、3月2日 16日
13時30分～14時30分

ウ）令和7年10月3日(金)、11月7日(金)　19時～20時30分

②ふれあいひろば

ア）令和7年6月16日(月)、7月23日(水)、9月22日(月)
10月22日(月)、12月3日(月)　19時～20時

イ）令和7年12月14日(日)　11時～15時

ウ）令和8年3月15日(日)　10時30分～16時

③いきセン講座

令和7年12月14日(日)　11時～15時

2　開催場所：①サークル活動立ち上げ支援

ア、イ）吉祥院いきいき市民活動センター別館サロン

ウ）吉祥院いきいき市民活動センター会議室1・2

②ふれあいひろば

ア）吉祥院いきいき市民活動センター会議室1

イ）吉祥院体育館

ウ）ひと・まち交流館 京都

③いきセン講座

吉祥院体育館

3　参加人数：①ア）延べ29名　イ）延べ169名　ウ）延べ5名

②ア）延べ24名　イ）約500名　ウ）170名

③約500名

4　協力団体等：吉祥院少年指導・自主防災会・吉祥院小学校おやじの会・吉祥院老人デイサービス・南エコまちステーション・上鳥羽北部いきいき市民活動センター・六斎保存会等

5　予算：　730,000円　／　決算：　746,247円

1　事業内容

① サークル活動立ち上げ支援

多様な市民活動を行う方に対し、チラシの作成やSNSでの発信などの広報面と、活動場所の提供を通じて、それぞれが自立して活動できるよう支援した。

ア）各自の楽器を持ち寄って演奏を楽しむ会

イ）有志が集まり、ストレッチを中心に運動する会

ウ）健康づくり・護身術・ダイエットなど目的を定めて楽しく空手を体験

② ふれあいひろば

ア）市民活動者同士の交流の場を設け、ふれあいひろば開催に向けての協議を行った。

イ）市民活動団体の活動紹介や発表の場。また、他域団体との交流を目的とし21団体の参加、ワークショップ形式とステージ形式で実施した。

ウ）いきいき市民活動センター、市民総合センターを拠点に活動する団体が一堂に集い、活動発表や作品展示の場とする文化祭的イベント。

③ いきセン講座

市民活動をテーマにした講座を行い、市民参加の“きっかけ”としてもらう。市民活動活性化のスキルアップを図る。

集客が見込める「ふれあいひろば」にて実施。淀川管内河川レンジャーの活動をされておられる方が、桂川の魅力を伝える活動と今とむかしの水害について発表された。

2　準備段階での工夫

① サークル活動立ち上げ支援

ア）気軽に参加できるよう、楽器の種類を問わず参加しやすい雰囲気づくりを心がけた。

イ）これまでリーダーを持ち回りで担っていたが、負担軽減のためリーダーを設け、安心して参加できる体制を整えた。

ウ）初心者でも安心して参加できるよう、基礎から学べる内容とし、目的（健康・護身・体力づくり）に応じた参加を促した。

② ふれあいひろば

ア）ふれあいひろばの円滑な運営につなげるため、事前に市民活動者同士の交流会を催し、当日の流れや発表内容、ステージプログラムの順番、チラシの内容、広報の仕方などについて意見交換を行い、参加団体間での共通理解を深めた。

また、LINEグループを活用することで、交流会に参加できなかった団体に対しても情報を共有し、より多くの関係者が共通認識をもてるよう工夫した。

イ）参加団体が発表しやすいよう、ワークショップ形式とステージ形式の両方を取り入れ、チラシには昨年の様子を動画で見られるQRコードを掲載し、事前に会場の雰囲気が伝わるよう工夫した。また、会場にはバルーンによるフォトスポットを設けるなど来場者が楽しめる空間づくりを行った。さらに、以前から事業アンケートや市民活動団体から「昼食をとれるよう、飲食ブースがあると嬉しい」との声が多く寄せられていたことを踏まえ、吉祥院おやじの会に協力を依頼し、ハンバーガーと焼きそばの飲食ブースを出展してもらった。来場者からも好評であった。展示ブースは昨年の反省を踏まえて配置を見直し、ステージについても観客や出演者の動線を考慮した進行とするなど、全体の運営面でも改善を図った。

ウ）複数回のzoom会議を重ねて情報共有や役割分担の調整を丁寧に行った。
当センターとしては、貸館利用者に対して早めに声掛け・周知を行い、展示・ステージ発表の参加につなげた。前日にいきセン職員で展示の準備を行った。当日はステージの持ち場を担い、スムーズな運営に貢献した。

③ いきセン講座

市民活動への関心を高めるきっかけとなるよう、「ふれあいひろば」と同時開催とし、地域で実際に活動している方を講師とすることで、身近で親しみやすい内容となるよう企画した。

3 事業実施による効果・達成度

（1） 当初の事業効果，目標等

① サークル活動立ち上げ支援

ア）各自好きな楽器を持ち寄り演奏することで、参加者同士の交流を深め、つながりのきっかけとなること、また参加者主体で継続運営されることを目標とした。

イ）サークルの立ち上げにあたり、無理なく体を動かす機会をつくることで運動へのハードルを下げ、誰でも気軽に参加できる場づくりを目指し、自立的に活動を広げられるようにすることを目標とした。

ウ）初心者でも安心して参加できる環境のもと、健康づくりや体力向上、護身意識の向上など、それぞれの目的に応じた取組を促すこと、参加者を増やすことを目的とした。

② ふれあいひろば

ア）市民活動者同士が事前に意見交換を行い、「ふれあいひろば」の内容や進め方について共通認識を持つことを目標とした。

イ）参加団体がそれぞれの活動内容に応じて発表できるよう、ワークショップ形式とステージ形式の両方を取り入れ、多様な発信と交流の場をつくることを目標とした。

ウ）利用者に日頃の活動成果を披露できる場を提供すること、および他センターとの交流の機会を生み出すことであった。事業全体としては、これまで地域内にとどまっていた各センターの催しを「ひと・まち交流館京都」という広い場所に移し、より多くの京都市民へ活動を発信するとともに、センター間の交流やイベント運営のノウハウ共有を促進することを目標とした。

③ いきセン講座

市民活動をテーマとした講座を通じて、河川ボランティアの活動への理解と応援の輪を広げながら、市民が活動に興味をもつきっかけをつくること、地域で活動する人材の掘り起こしにつなげることを目標とした。

（2） 事業実施による目標の達成度

① サークル活動立ち上げ支援

ア）サークル活動の立ち上げ支援を通じて、参加者がそれぞれの楽器を持ち寄り、ともに演奏を楽しめる場を創出することができた。参加者同士の交流も生まれ、音楽を通じた市民活動のきっかけづくりとして一定の成果が得られた。
ただ、参加人数の変動により安定した演奏体制を維持することが難しい面もあったため、定期開催という形はいったん区切りとした。
その後も活動は続いており、参加者の中から同じ楽器仲間のつながりが生まれ、オカリナグループが新たに誕生するなど、それぞれの形で音楽活動が広がっている。

イ）当初はリーダーを持ち回りとしていたが、負担に感じて参加を控える方もいたことから、運営方法を見直し、リーダーを配置する形で活動を進めることとした。
その結果、安心して参加できる環境が整い、一時は２名まで減少していた参加者数も現在では21名まで増加した。
想定をうわまわる人数となり、より広い会場を確保して活動を行うこととなった。
こうした積み重ねを経て、活動は自立した形で継続できるようになった。

ウ）２日間の体験を通じ、５名の参加があり沖縄空手に初めて触れる機会を創出した。参加者からは好意的な反応が得られ、地域における伝統武道への関心の芽を育むことができた。自立には至らなかったが、市民の「やってみたい」を形にするお手伝いができた。また、講師からも地域の方々に空手の魅力を直接伝えられる貴重な場になったと喜んでいただけた。

② ふれあいひろば

ア）交流会において、当日の流れ・発表内容・ステージプログラムの順番・チラシ広報の方法など、多岐にわたる事項について参加団体間で意見交換を行い、共通認識を持った上で本番に臨むことができた。
交流会を重ねる中で、昨年の様子を収めた動画をＱＲコードにしてチラシに掲載するアイデアが生まれ、参加前から当日の雰囲気をイメージしてもらえるような工夫につながった。また、バルーンアートを使ったフォトスポットを設けるなど、退場者が楽しめる場づくりも団体間の話し合いから実現した。さらに、前年度の会場配置で不便だった点を参加団体が率直に出し合い、皆で話し合いながらより動きやすい配置を考えることができた。こうした前年度の反省を活かした取り組みが、21団体が参加するイベントをスムーズに実施することにつながり、目標は概ね達成できたと考える。

イ）　21団体が参加し、活動紹介や発表を通じて来場者との交流が生まれた。また団体同士のつながりの機会にもなり、当初の目的をおおむね達成することができた。
参加団体がそれぞれの活動内容に合わせて発表ができ、多様な発信と交流の場をつくることができた。準備段階での工夫もあり、「これまでセンターの存在は知っていたが、このようなイベントがあることで入りやすかった。今回初めて来館できて良かった」といった声も聞かれ、新たな来館者のきっかけづくりにもつながった。
バルーンによるフォトスポットは、特に若い来場者に好評で、写真撮影を楽しむ様子が見られるなど、会場のにぎわいづくりにも寄与した。
事業アンケートや市民活動団体から以前要望のあった飲食ブースについて、吉祥院おやじの会の協力により、ハンバーガーと焼きそばを出展してもらった。来場者からも好評であり、会場内で昼食をとれる環境を整えたことで、来場者の滞在時間の延長やふれあいひろば全体のにぎわい創出につながった。
チラシでの事前周知や会場レイアウト・動線の見直しといった工夫もあり、
来場しやすい雰囲気づくりができ、全体として来場者の増加につながった。

ウ）　当センターの利用者には、展示では絵画、木目込み人形、能面、ステージ発表ではヒップホップダンスとフラダンスの両面で参加いただき、日頃の活動を広い場で発信するという目標は達成できた。また、他センターの職員や出展者との関わりを通じて、センター間の交流という目標についても一定の手応えが得られた。

③　いきセン講座

「ふれあいひろば」と同時開催したことで、普段は市民活動にあまり関心のない方にも講座を聞いていただくことができた。実際に活動している河川レンジャーを講師としたことで、内容に具体性と親しみやすさがあり、桂川の魅力や過去の水害の話を通じ、地域課題と市民活動のつながりへの理解が深まった。
講座とは別にブースを設け、活動の展示や個別での説明を行った。その中で講師が独自にアンケートを実施し、市民の関心やニーズを把握することができ、今後の活動の参考となった。実際にこの結果をもとに今年度の活動予定が検討・決定された。

4　今後の抱負

本事業を通じて、サークル活動立ち上げ支援では市民が気軽に参加できる活動の入口づくり、ふれあいひろばでは活動団体同士および来場者との交流促進、いきセン講座では市民活動への関心喚起と理解促進を図ることができた。
今後は、これらの事業を相互に関連づけながら、参加者が「知る」「参加する」「継続する」流れをより強化し、市民活動の裾野を広げるとともに、地域で主体的に活動する人材の発掘・育成につなげていきたい。

● ストレッチ同好会 ●

● 沖縄空手 ●

● ふれあいひろば交流会 ●

● 音楽サークル ●

● ふれあいひろば ●

● みんなの文化祭 ●

【事業名】地域交流拠点事業（サロン運営・活用事業）

① 子育てサロン

（ア 児童館コラボ事業　イ はしる図書館　ウ いきセン物々交換会　エ 親子クッキング）

② 放課後学習会

③ 今日は何の日（ア ラララ♪歌の日　イ 筋力トレーニング　ウ ハーバリウム作り）

④ 作品展（ア 吉祥院児童館作品展　イ 合同作品展）

⑤ みんなのサロンプロジェクト

事業の概要

1　開催日時：①子育てサロン

ア）・ベビーマッサージ　令和7年6月18日(水)／10月15日(水)
令和8年2月4日(水)　各日 10時～12時

・工作　令和7年8月1日(金)　12時～16時

・親子ヨガ　令和7年9月8日(月)　10時～12時

・スクラップブッキング　令和7年12月18日(木)　10時～12時

イ）令和7年8月9日(土)　11月22日(土)

各回2部制　11時～13時　14時～16時

ウ）令和7年6月29日／9月7日／11月16日／12月21日

令和8年2月22日／3月22日　各日 日曜日　10時30分～12時30分

エ）令和8年1月24日(土)　10時30分～12時30分

②放課後学習会　　令和7年4月～2026年3月

毎週月曜日（祝日休み）17時～19時30分　計37回

③今日は何の日

ア）令和7年4月～令和8年3月

毎月第1・第3金曜日（8月は休み）　13時30～14時30分

イ）令和7年4月～令和8年3月

毎月第2月曜日（祝日の場合翌週）　13時30分～14時30分

ウ）・ハーバリウムづくり　令和7年8月9日(土)　13時～15時

・生花アレンジ　令和7年12月14日(日)　11時～15時

④作品展

ア）令和7年9月1日(月)～9月13日(土)　10時～16時30分

イ）令和8年2月12日(木)～3月11日(水)　10時～16時30分

⑤みんなのサロンプロジェクト　随時

2　開催場所：①～⑤　吉祥院いきいき市民活動センター　別館サロン

3　参加人数：①子育てサロン　ア）延べ75名　イ）67名　ウ）延べ約225名　エ）4名

②放課後学習会　延べ158名

③今日は何の日　ア）延べ614名　イ）86名　ウ）14名

④いきいき作品展　ア）約65名　イ）約100名

⑤随時

4　協力団体等：　吉祥院児童館・日本新薬株式会社・清和園・明日香デイサービス

京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課食育担当

5　予算：　2,037,000円　　／　決算：　1,953,001円

1　事業内容

地域間や世代間での積極的な交流の場を提供し、発掘した人材の活動の場とする事業を実施し、市民にとって住みやすい、顔の見えるまちづくりを目的とする。また、事業を通してサロンの利用促進につなげる。

① 子育てサロン

ア）児童館コラボ事業

近隣の児童館と連携し、児童館主催のイベントを実施。親子で楽しめる内容とした。

・ベビーマッサージ・工作・親子ヨガ・スクラップブッキング

イ）はしる図書館

日本新薬株式会社が所有、運営する移動図書館「はしる図書館キラキラ未来ゴー！」をお招きし、子どもたちが本に親しむ機会を提供した。同社の地域貢献活動の一環として実施したものであり、地域企業との連携による子どもの読書環境づくりに取り組んだ。

ウ）いきセン物々交換会

子育て世代の方を対象に、家庭で不要になった子ども服やおもちゃ、本などを持ち寄り、自由に交換できる物々交換会を実施。持参だけでなく持ち帰りのみや、立ち寄って見るだけ、会話を楽しむだけの参加も歓迎し、気軽に足を運べる場づくりを大切にした。リユース活動を通じて、地域のつながりや交流のきっかけを提供するために取り組んだ。

エ）親子クッキング

食育を通じて家族のコミュニケーションを深めるとともに、料理の楽しさや食べることの大切さを学ぶ機会を提供した。当日は食育指導員のもと身近な食材を使い、おにぎり、シュウマイ、豆腐白玉団子づくりに取り組んだ。

② 放課後学習会

元教員や大学生ボランティアスタッフが見守る中で、分からないところを気軽に質問することができる学習の場として小学校５・６年生と中学生を対象に「放課後学習会」を実施した。加えて、学習支援の一環として、夏休みには課外授業として日本アイ・ティ・エフ株式会社を見学し、社会や仕事への理解を深める機会を設けた。

③ 今日は何の日？

ア）懐かしい昭和の歌やフォークソング、童謡、叙情歌など多様な
楽曲を用い、参加者は歌唱に加え、軽い体操も取り入れながら、心身のリフレッシュを図る。

イ）65歳以上の方を対象に、家庭で継続的に取り組んでいただけるよう、京都市が開発したプログラムを紹介。

ウ）季節の花材を用いたフラワーアレンジメント講座。
初心者でも気軽に参加できる内容として、ハーバリウム作り、生花アレンジを開催

④　いきいき作品展

ア）児童館の子どもたちが作った作品の展示

イ）市民の手作り作品やオリジナル作品の展示

⑤　みんなのサロンプロジェクト

誰にとっても分かりやすく親しみやすい環境整備を行う。

あわせて、事業参加をきっかけに増加している若い世代の自由来館による利用を継続的に促進し、世代を問わず交流できる場としての活用を図る。

「いきいきガーデン倶楽部」を中心に、ボランティアや地域の教育・福祉関係機関と協働し、四季折々の花の植栽を行い、親しみやすい外観づくりを進める。

併せてサロン内部の整備を整え、再来したくなる居心地の良い空間にする。

また、近隣の保育園や児童館と連携し、花壇を活用した植栽活動を行うなど、地域に開かれたサロンづくりを推進する。

2　準備段階での工夫

①　子育てサロン

ア）児童館との連携にあたり、事前に打ち合わせを行い、親子が安心して過ごせる雰囲気づくりを大切にした。

イ）子どもたちが参加しやすいよう、第1回は夏休み期間に合わせて開催した。暑さ対策として、移動図書館は屋外に設置しつつ、読書は冷房の効いたサロン内でゆっくり楽しめるようにした。

第2回は「屋外でのびのび楽しんでもらいたい」という思いから、気候の穏やかな11月に開催。近隣の保育園や児童館にも声をかけ、多くの子どもたちに来てもらえるよう準備を進めた。

ウ）協力団体であるAt-Kyoto（アットキョウト）から物品の寄付や運営ノウハウの提供を受け、円滑な実施に向けた体制を整えた。

エ）親子で無理なく取り組める食材や調理工程を選定し、作業内容を分け、安全面にも配慮した。

②　放課後学習会

昨年度は中学生を対象としていたが参加者が少なかったため、今年度は対象を小学校5・6年生にも広げた。地域での声掛けを丁寧に行うことで、少しずつ参加者の増加につなげた。また、各学年に合わせた問題集を用意し、それぞれの学習段階に応じた支援ができるよう工夫し、宿題や勉強用具を持参しなかった子どもにも対応できるように準備した。また、学習支援だけでなく、学ぶことへの興味や将来への関心が広がるよう、夏休みに会社見学の計画をした。

③　今日は何の日

ア）参加者が親しみやすいよう、幅広い楽曲を選定した。歌うだけでなく、無理のない軽い体操も取り入れた。

イ）家庭でも無理なく取り入れられる内容とした。

ウ）季節感を楽しめる花材を取り入れ、初心者でも安心して参加できる内容とした。

④　いきいき作品展

ア）児童館に事前に足を運び、作品の内容を把握したうえで展示方法を検討した。

イ）近隣のデイサービス２か所へ参加を呼びかけるとともに、作品の搬入が困難な方は自宅まで伺い、作品を預かる対応を行った。

⑤　みんなのサロンプロジェクト

・毎月「別館サロン便り」を作成し、サロンで開催される事業を一目で把握できるカレンダーとして来館者に配布した。

・サロンの庭の整備に向け、必要な道具や植木を事前に調達。

・サロン内部の環境改善に向け、レイアウトや備品の見直しを実施。

３　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

①　子育てサロン

ア）子育て世代同士の交流を促進することを目指した。児童館との連携を深めながら、これまでサロンを利用したことのない方にも足を運んでいただくきっかけづくりにつなげる。

イ）子どもたちが自由に本に触れ、読書を楽しむ機会をつくる。

ウ）子育て世代が気軽に集い、交流できる居場所をつくること、また不用品のリユースを通じて環境意識を高める、子育て中の孤立感の軽減やリフレッシュの機会を提供することを目的とした。

エ）食育を通じて親子のコミュニケーションを深め、料理の楽しさや食べることの大切さについて理解を深めていただくことを目標とした。

②　放課後学習会

子どもたちが安心して学習に取り組める居場所をつくること、わからないことをそのままにせず相談できる環境を整えること、そして学習支援を通して学ぶ意欲や将来への関心を育むことを主な目標とした。企業見学のような体験の機会を設けることで、自分の視野を広げるきっかけになることを期待した。

③　今日は何の日？

ア）音楽と体操を通して心身のリフレッシュを図り、参加者同士の自然な交流を生み出すことを目標とした。あわせて、歌うことによる健康効果にも着目し、脳の活性化や記憶力の維持・向上、認知症予防への働きかけ、発声による誤嚥防止、ストレス発散など、心と体の両面に良い影響をもたらす機会となることも期待した。

イ）事業の場だけでなく、日常生活の中でも継続して取り組んでもらうことを目標とした。

ウ）創作活動を通して心のリフレッシュを図り、参加者同士の交流のきっかけとすることを目標とした。

④　いきいき作品展

地域住民や子ども、高齢者が作品展を通じて交流し、多世代のつながりを深めることを目的とした。また、市民が制作した作品の発表の場を提供するとともに、幅広い市民の参加によるにぎわいの創出目標とした。

⑤みんなのサロンプロジェクト

「親しみやすい環境整備」「世代を問わず交流できる場の形成」「地域に開かれたサロンづくり」といった目標に向けて取り組んだ。

（2）事業実施による目標の達成度

① 子育てサロン

ア）当日は親子で楽しむ様子が多くみられ、参加者同士での交流が生まれていた。児童館との連携により、普段サロンを利用しない方にも知っていただくきっかけになった。

イ）8月・11月の両開催を通して、子どもたちがそれぞれの環境の中で楽しそうに本を選び、夢中になって読書する姿が印象的だった。季節に応じた工夫により、快適でのびのびとした読書の場を提供することができた。本の貸出総数も約300冊となった。

ウ）年間を通じて多くの方に参加いただき、特に父親の参加も多く見られた。参加者同士で活発に物品交換が行われ、服を選びながら自然と会話生まれるなど、和やかな雰囲気の中で交流が広がった。子育て中の方が、ほっと一息つける場として、一定の役割を果たすことができた。

エ）当日は、食育指導員による手の洗い方からの丁寧な指導のもと、子どもたちは少し緊張した様子を見せながらも、包丁を使ったりシュウマイ包んだりといった工程に意欲的に取り組み、楽しそうな表情が印象的だった。完成後には「自分で作ったものは美味しい」といった声や笑顔が見られ、食べることへの喜びや感謝の気持ちを育む機会となった。

② 放課後学習会

対象者を見直したことで、参加者が徐々に増え、継続して利用する児童も見られるようになった。わからない点をその場で解決できる機会が生まれ、学習への前向きな姿勢につながっている様子がうかがえた。また、放課後学習会を通して日々の学習を支えるだけでなく、夏休みの会社見学では、実際の仕事のしくみに触れることで、学ぶことの意味を身近に感じるきっかけにもなった。学習面での支援と体験的な学びの両方を取り入れたことで、学びへの意欲を育てる場づくりに一定の成果があったと考えている。

③ 今日は何の日？

ア）歌をきっかけに自然と会話が生まれ、笑顔が多く見られるなど、交流の場としての効果が十分に発揮された。歌唱だけでなく、講師による楽しい曲紹介や軽妙なやり取りが場の雰囲気を和ませ、参加者がそれに応じてツッコミを入れるなど、笑いのある和やかな空間が生まれていた。さらに、このような良好な活動により来年度からは、講師が吉祥院いきセンの会議室を活用し、自主的に活動を継続していくことになった。

イ）参加者から「家でもやってみたい」という声に加え、「実際に継続してとりくんでいます」といった嬉しい報告も聞かれるようになった。また、参加者がご友人を誘ってくださり、参加数の増加にもつながっている。

ウ）夏休み期間中の開催により、子どもを含む幅広い年齢層の参加があり、多世代がともに作品づくりを楽しむ場となった。制作中は、色合いや配置について参加者同士で声を掛け合い自然に助け合う様子が見られるなど、交流の広がりが感じられた。完成作品の満足度も高く、お互いに見せあいながら感想を伝え合う姿も見られ、世代を超えたコミュニケーションの機会として有意義な時間となった。

④ いきいき作品展

多くの家族連れが来場し、会場はにぎわいを見せた。

他の事業で来館された方も作品を鑑賞して帰るなど、幅広い来場者に作品を見てもらう機会となった。デイサービス利用者の家族からも好評だった。また、市民の作品を鑑賞した地域住民から「自分もやってみたい」と声が上がり、実際にサークル活動へ参加する方も見られた。来場者数も昨年を上回り、目標は概ね達成できた。

⑤ みんなのサロンプロジェクト

毎月のサロン便りによって来館者の参加意欲が高まり、サロンの認知度が向上した。花壇整備や植栽を通じて、ボランティアや保育園、児童館など多様な世代との関わりが増え、地域との連携が深まった。外観や内部環境の改善により、来館者からは「居心地が良い」「また来ます」といった声が寄せられ、自由来館の継続利用にもつながった。

4 今後の抱負

① 子育てサロン

今後も、児童館をはじめとした地域の関係機関と連携しながら、親子を中心に多世代が気軽に集える居場所づくりを継続していきたい。各事業については実施状況を踏まえた見直しを行い、「はしる図書館」は実施時間や方法の工夫を検討する。「物々交換」は来館者とのコミュニケーションを大切にしながら円滑な運営を図り、親子クッキングは調理室の利用促進も目的としているため、形を工夫し継続する。

② 放課後学習会

これまでの支援に加え、体験的な活動や実習的な要素も取り入れることで、学ぶ楽しさや興味関心を広げられるような取り組みを進めていく。さらに、継続的な声掛けや周知を行いながら、参加者の広がりと学習習慣の定着につなげていきたい。

③ 今日は何の日？

今後も、地域や世代を超えた交流の場として、誰もが気軽に参加できる取り組みを大切にしていきたい。参加者の声も取り入れ、より親しみやすく継続しやすい内容へと工夫を重ねていく。

④ いきいき作品展

今後も地域や関係機関とも連携を深め、より多くの市民が参加しやすい作品展を目指す。継続して出展してくれている方の参加を大切にしつつ、新たな出展者の発掘にも取り組み、参加者の裾野をひろげていく。

⑤ みんなのサロンプロジェクト

今後も季節ごとの植栽活動をさらに充実させ、地域住民が主体的に関われる仕組みを強化していく。サロン便りをはじめとした情報発信の方法を工夫し、より幅広い世代に参加を促す取り組みを進めたい。

●児童館コラボ●

●はしる図書館●

●物々交換会●

●親子クッキング●

●放課後学習会●

●ららら♪うたの日●

●ハーバリウム作り●

●筋トレ●

●いきいき合同作品展●

いきいきガーデン

青い空保育園の菜園(芋・玉ねぎ)

３．利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

１　利用料金の収入実績

（令和７年度実績：1,979,800 円（前年度比 107%）
　内訳　会議室等：1,979,800 円）

２　管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

４．施設の利用者満足度の把握

１　利用者満足度の把握状況

（１）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和７年１１月実施

【調査項目】窓口サービス

（２）センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

２　利用者満足度把握の結果

（１）全センター共通窓口サービス

満足	普通	不満	無回答
84%	15%	1%	0%

（２）センター独自アンケート

概ね満足。

３　意見等への主な対応状況

〇利用者からの意見・要望をしっかり受け止め、人気の高い事業は継続しながらより良い内容となるよう改善に取り組んでいく。また、利用者が気軽に相談や声かけができるよう、日頃からスタッフとのコミュニケーションを大切にし、満億度の向上につなげていく。

5．指定管理者による管理運営業務の自己評価

・　取り組んだ事業等の総括を記載してください。

貸館事業については、年間利用件数を上回り、単発・定期利用ともに増加傾向が見られた。平日夜間はダンスや空手、事業者の定期利用が集中して高い稼働率を維持し、日曜日も楽器演奏や居合など活動が多様化。利用者への丁寧なヒアリングと積極的な声掛けを通じてニーズを把握した結果、定期利用団体による個人レッスン利用も増え、利用形態の幅が広がっている。

令和７年度に実施した事業の中でも特に力を入れてきた４つの取り組みについて、着実な成果と次年度以降につながる手応えを得ることができた。

なかでも「ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援」では、４年間にわたり積み重ねてきた支援の結果として、地域団体が主体となって事務局（とりまとめ）を担う体制へ移行することができた。当センター主体で進めてきた事業が、地域主体へと引き継がれていく姿を見届けることができたことは、本年度の取り組みの中でも特に大きな喜びであった。

また、「ふれあいひろば」では、交流会を重ねる中で参加団体同士の意見交換と情報共有が進み、昨年度の反省点も踏まえながら、より来場者が楽しめる企画づくりにつなげることができ、結果として昨年度を大きく上回る来場者につながった。

21 団体が参加するイベントをスムーズ運営できたことは、積み上げてきた連携の成果といえる。

「ららら♪うたの日」では、講師による自主的な活動継続の意向が生まれ、今年度からは当センターの会議室を活用しながら継続されることとなった。センター事業として始まった活動が、参加者と講師の力によって自立的な活動へ発展したことは、大きな成果であった。

「みんなのサロンプロジェクト」では、これまで雑草が多く、十分に活用されていなかったサロンの庭について、センタースタッフとボランティアが協力して整備を行い、継続な手入れや植栽を進めた結果、以前の様子を知る方が驚くほど美しく整った空間となり、来館者からも好評を得ることができた。また、庭づくりを通して地域住民やボランティアとの関わりも広がり、サロンが地域交流の場としてさらに親しまれるきっかけとなった。

・　今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

貸館の利用件数は増加傾向にあるものの、平日夜間に利用が集中新規利用者が入りにくい状況であるため、既存の利用者とのバランスに配慮しながら新規利用の受け入れ機会の確保に努めることが課題である。

料理室など認知度が低い設備については、事業を実施し積極的なPRに取り組み、利用促進につなげていく。

・　次年度に向けた対応にについて記載してください。

定期的なヒアリングとアンケートを通じて利用者の声を収集し、施設のルールや設備の改善に反映していく。

○　施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。

例）重大な事故やコンプライアンス違反等があった場合は、その概要、改善策等を記載

例）年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業があった場合は、その事業の名称及び内容、実施できなかった理由、中止した事業の取扱い（翌年度（令和７年度）に実施するのか、しないのか。）等を簡潔に記載

特になし

【締め切り】

５月 22 日(金) までに地域自治推進室へデータ１部＋紙１部を提出

※　地域自治推進室の確認後、紙の残部（１７部又は１８部）を提出

※　収支決算書は、５月 15 日(金) までに提出してください。

京都市吉祥院　いきいき市民活動センター
指定管理料等に関する収支決算書（令和7年度分）

指定管理者名　NPO法人もれおい吉祥院ネットワーク
代表者名　野村　長博

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		18,681,360	18,681,360	0
利用料金収入		1,500,000	1,979,800	479,800
	会議室等	1,500,000	1,979,800	479,800
				0
				0
その他収入	地域体育館負担分管理費収入	2,400,000	2,318,505	▲ 81,495
	吉祥院診療所負担分管理費収入	350,000	126,186	▲ 223,814
	明日香デイサービス負担分管理費収入	640,000	424,691	▲ 215,309
	預金利息	2,000	10,546	8,546
				0
当期収入合計		23,573,360	23,541,088	▲ 32,272
【支出の部】				
1.指定管理業務				
人件費		8,598,600	7,878,401	720,199
	職員7名	8,598,600	7,878,401	720,199
				0
				0
				0
光熱水費		5,190,000	4,415,177	774,823
	電気代（本館）	3,300,000	2,782,411	517,589
	電気代（別館）	1,000,000	670,180	329,820
	ガス代（本館）	80,000	50,230	29,770
	ガス代（別館）	10,000	9,108	892
	水道代（本館）	600,000	706,825	▲ 206,825
	水道代（別館）	300,000	196,423	103,577
施設管理費		1,245,000	1,038,173	206,827
	受水槽・高架水槽清掃（別館）	40,000	38,500	1,500
	消防設備点検(本館)	45,000	44,000	1,000
	消防設備点検(別館)	45,000	44,000	1,000
	自家用電気工作物点検（別館）	150,000	146,520	3,480
	防火設備点検（別館）	40,000	38,500	1,500
	特定建築物定期調査	70,000	0	70,000
	樹木剪定（本館・別館）	350,000	319,000	31,000
	機械警備（本館）	65,000	68,080	▲ 3,080
	機械警備(別館)	85,000	87,120	▲ 2,120
	定期清掃(本館・別館)	300,000	203,500	96,500
	一般、産業廃棄物収集(本館・別館)	35,000	58,953	▲ 23,953
	その他施設管理費	30,000	0	30,000
				0
事務費		431,000	452,710	▲ 21,710
	電話代（本館・別館）	155,000	170,932	▲ 15,932
	ネット接続等	240,000	250,164	▲ 10,164
	ＥＢサービス	14,000	13,200	800
	NTT	22,000	18,414	3,586
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
修繕費		750,000	614,900	135,100
	消防設備修繕：非常灯（本館）	750,000	83,600	666,400
	LAN配線工事		46,200	▲ 46,200
	料理室ガス給湯器		154,000	▲ 154,000
	給湯器給水管取替え		154,000	▲ 154,000
	消防設備修繕：受信機バッテリー（本館）		39,600	▲ 39,600
	消防設備修繕：非常放送バッテリー（本館）		72,600	▲ 72,600
	消防設備修繕：誘導灯・受信機バッテリー（別館）		64,900	▲ 64,900
				0

備品購入費（5万円以上の物品）			1,580,876	▲ 1,580,876
	電動自転車　2台		248,480	▲ 248,480
	サロン：ロビーエアコン　1台		796,400	▲ 796,400
	休憩室：エアコン　1台		167,200	▲ 167,200
	ポータブル電源　1台		151,416	▲ 151,416
	防犯カメラ		156,200	▲ 156,200
	冷蔵庫		61,180	▲ 61,180
租税公課		1,758,000	2,044,500	▲ 286,500
	法人税	100,000	366,900	▲ 266,900
	地方法人税	15,000	38,000	▲ 23,000
	法人市民税	60,000	72,100	▲ 12,100
	法人府民税	35,000	23,600	11,400
	法人事業税	15,000	86,100	▲ 71,100
	特別法人税	20,000	31,800	▲ 11,800
	消費税	1,500,000	1,426,000	74,000
	印紙税	3,000	0	3,000
	その他税	10,000	0	10,000
その他		1,126,760	883,923	242,837
	会議費	5,000	0	5,000
	広告宣伝費	10,000	0	10,000
	事務用品消耗品費	30,000	62,215	▲ 32,215
	備品消耗品費	150,000	111,230	38,770
	備品消耗品費（※利用料金収入で購入分）	0	363,059	▲ 363,059
	コピー使用料	140,000	113,263	26,737
	旅費交通費	5,000	0	5,000
	福利厚生費	350,000	140,000	210,000
	支払手数料	5,000	2,860	2,140
	新聞図書費	0	0	0
	雑費	5,000	0	5,000
	研究研修費	10,000	0	10,000
	印刷製本費（トナー・ドラム）	70,000	81,936	▲ 11,936
	保険料	10,000	9,360	640
	予備費	336,760	0	336,760
施設運営業務支出合計		19,099,360	18,908,660	190,700
2．事業実施業務				
市民活動支援・活性化事業費		1,570,000	1,567,754	2,246
	地域課題及び人材育成事業	840,000	821,507	18,493
	①ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援	298,000	288,022	9,978
	②地域住民の人材発掘及び育成事業	542,000	533,485	8,515
	市民活動スタートアップ・活性化支援事業	730,000	746,247	▲ 16,247
	①サークル活動立ち上げ支援	278,000	272,569	5,431
	②ふれあいひろば	261,000	287,688	▲ 26,688
	③講座	191,000	185,990	5,010
サロン運営・活用事業費		2,904,000	2,745,913	158,087
	吉祥院六斎念仏保存活動支援事業	867,000	792,912	74,088
	①指導者の育成事業	278,000	243,000	35,000
	②運営委員会支援	83,000	76,000	7,000
	③後継者育成支援	329,000	321,585	7,415
	④情報発信・広報支援	84,000	79,327	4,673
	⑤施設設備	96,000	76,000	20,000
	地域交流拠点事業	2,037,000	1,953,001	83,999
	①子育て世代支援	583,000	580,107	2,893
	②多世代地域間交流	600,000	529,443	70,557
	②施設設備	854,000	843,451	10,549
その他	事業実施業務繰越	0	0	0
事業実施業務支出合計		4,474,000	4,313,667	160,333
当期支出合計		23,573,360	23,222,327	351,033
当期収支差額		0	318,761	318,761

資料様式

令和７年度　事業報告書
上鳥羽南部いきいき市民活動センター

【指定管理者：株式会社丸起】

目次

１．管理運営の状況 1
１　施設運営業務 1
（１）職員体制 1
（２）貸館等 1
（３）情報発信等 2
（４）管理運営 3
（５）その他 3
２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業 4
１．市民活動支援・活性化事業 4
１．上鳥羽六斎念仏 発表会（6/22） 4
２．上鳥羽六斎念仏 勉強会（11/23） 6
３．歌声サロン（第 1,3 金曜日） 8
４．健康体操（第 1,4 木曜日） 10
５．卓球交流会（9/20） 12
６．鯉のぼりによるまちづくり（2/6,3/7,3/14） 14
７．みんなの文化祭（3/15） 16
８．いきセンのある地域を知る（12/14） 18
２．サロン運営・活用事業 20
１．マージャン交流（第 1,3 月曜日,第 3 木曜日） 20
２．造形教室（第 4 日曜日） 22
３．フラワー教室（第 2 土曜日） 24
３．利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算 26
４．施設の利用者満足度の把握 26
５．指定管理者による管理運営業務の自己評価 29
６．その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項 29

１．管理運営の状況

１　施設運営業務

（１）職員体制

センター長１名、職員５名（常勤３名、非常勤２名）

【人材育成の取組】

貸館業務やSNSへの投稿といった情報発信などを全職員が同じレベルで行えるよう、実務をとおしてスキルアップに努めた。また、市民活動に詳しい者を非常勤スタッフとして採用し、概ね月２回程度事業の企画や実施についての意見交換をし、また月１回のミーティングを行いセンター職員の力量の底上げに努めた。

（２）貸館等

ア　利用件数

（月別）

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
83	92	91	89	101	99	96	91	74	77	89	82

（年間）1064件（前年度比　120%）

（参考：令和６年度884件、令和５年度726件、令和４年度642件、令和３年度552件）

イ　利用状況

〇年間での利用状況について

利用件数の内訳は、第一会議室約71%、第二会議室約11%、第三会議室約18%。利用時間は、第一会議室65%、第二会議室第12%、第三会議室23%であった。

第一会議室は、利用の83%を卓球が占めており、平日と土曜日の午前・午後はシルバー世代が、日曜日は家族での利用が多い。日曜日はその日に空き状況を確認してから利用されるケースが多かったが、日曜日・祝日に定期的に利用するグループが増えてきている。どの時間帯も利用が増えており、主に楽器や音楽練習での利用が増えてきている。

第二会議室は利用が増えており、新規利用者による楽器練習で利用された。

第三会議室も利用が増え、前年度の1.5倍になっている。楽器練習や事業とは別のマージャンで利用された。

事業者利用は件数は少ないが、センターの近くにある事業所が面談で利用された。また、久世包括支援センターと陶化包括支援センターとが合同地域ケア会議で利用し、センターからも数名が同席して今後のセンターの利用、活用について意見交換を行った。

〇課題や改善が見られた部分

・利用は第一会議室に偏っているが、第二、第三会議室の利用も増えており、全体として増加した。
・日曜日の利用が増えてきている。
・新規利用者はリピーターになっていることが多い。

ウ　利用促進に向けた取組

〇センターで取り組まれたこと

利用者が過ごしやすい環境づくりに力を入れている。来館時や退館時の挨拶や声かけ、ちょっとした相談事への対応などで、職員に親しみやすさを抱いてもらえるように努めた。

来館者向けに、１ヵ月間の会議室の空き状況の一覧を作成掲示しており、利用申請の際に空き状況を確認するための資料として活用した。

第三会議室のレイアウトを変更した。以前は、ローテーブル２台を囲むようにソファーを置いており、手狭であり備品は動かしにくいものであったので利用方法が限られる状態になっていた。備品を動かしやすくすることで部屋を広く利用できるようにするため、ソファーやローテーブルを処分や移動し、会議机とパイプ椅子に入れ替えた。利用者からは、ローテーブルでは低かったので使いやすくなったとの意見が寄せられた。

倉庫として使用していたキッチンの横にある旧浴場の事務スペースを、座りやすいレイアウトに改めて、会議室の入室までの待機場所としてやちょっとした休憩・交流スペースとして活用した。

以前からダンス利用の方からの要望があったため、折り畳みの姿見を導入した。ダンス以外にも、体操や音楽練習の方も利用されており、好評である。

エ　その他

〇サロンについて

令和元年度～７年度の利用状況

	元年度	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
件数	119	19	47	219	330	313	350
人数	1010	127	247	994	1739	1678	1829

令和６年度に比べて、件数と人数が増加した。サロンはサークル活動や事業で利用しており、利用状況がわかりやすいようにサロンの利用状況一覧を作成し配布した。事業とは別のマージャンサークルの方がこの一覧を活用して、空いている時間に利用された。その他会議や、早く来館された利用者が時間待ちをするためといった利用があった。散歩途中に立ち寄って休憩をする、といった利用はなかった。

サロンの畳は古くなって毛羽立った状態になっており、以前から利用者から指摘があり、上敷きを導入することで対処した。

（３）情報発信等

ア　取組実績

〇ＳＮＳをはじめとする広報媒体により，情報発信に積極的に取り組んだ事例について

センターの HP に、事業の実施風景の写真などを一覧表示で掲載し、わかりやすいようにした。

Facebook には年間 147 件投稿した。事業の実施予告や実施風景を写真や動画で投稿し、どのようなことをしているのかをわかるようにして親しみを感じるようにし、初めてセンターを利用しに来る方が来館しやすくなるような紙面を心掛けた。

「ジモティー」には、継続してセンターの情報を掲載した。

事業の参加者募集では、イベント周知チラシを地域回覧板で回覧し、各センターや市の施設等へ配架依頼をするほか、一部の事業については参加予定者に SNS へ投稿していただけるよう協力を仰いだ。

○センターの認知度向上だけでなく，市民活動に関わる様々な情報を工夫して周知された取組

センターに持ち込まれたチラシは、了解を得て Facebook へ投稿した。また、上鳥羽地域のことであれば実際に赴いて取材し、写真や動画をアップした（上鳥羽六斎念仏や、地域の寺院や施設のイベントなど）。

イ　取組の効果

○アの取組により効果が見られた事例

初めて来館される利用者には、どのようにしてセンターのことを知ったのかヒアリングを行っている。センターを利用している知人から紹介された方が多いが、ネット検索で当センターのホームページや「ジモティー」で見つけたという方もあった。ネット検索では範囲を“京都市南区”で検索してもヒットしないが、“上鳥羽”とすると「ジモティー」にヒットするので、今後も活用していく。

また、事業者利用では、会社の近くにある貸会議室を探していて「ジモティー」にたどり着いたという方があった。情報発信の取組が貸館について効果が出ていると考えている。

（４）管理運営

○防火管理者の選定、建築物の保守管理、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務、保安警備業務、植栽等保全業務の実績について

・センター本館１，２階の窓ガラスを中心とした清掃業務、建築設備と消防設備の定期点検等を実施。
・館内照明の LED 化、トイレ改修を実施した。
・備品について、老朽化した卓球台や故障した複合機を廃棄した。

（５）その他

○「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」で実施したもの

・「施設運営の質を高めるための取組」として、月１回センター職員による会議（センター会議）を実施している。定期開催することで課題を共有することができ、管理運営についても点検や保守などを計画的に行った。

２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

１．市民活動支援・活性化事業

【事業名】上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～　取組①　発表会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要 １　開催日時：令和７年６月 22 日（日）12 時 30 分～15 時 ２　開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター　第一会議室 ３　参加人数：　33 名 ４　協力団体等：上鳥羽橋上鉦講中 ５　予算：　197,000 円　　／　決算：　56,080 円

１　事業内容

センターと上鳥羽橋上鉦講中（以下講中）が共催で行った。参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、チラシ等を活用して募集した。

第１部　「上鳥羽六斎念仏のあゆみ」と題して、講中と上鳥羽六斎ジュニアの成り立ちや歴史、現在の活動内容や講中の魅力について紹介する。

第２部　①上鳥羽六斎ジュニアによる「四つ太鼓」の実演

②「四つ太鼓」の演奏体験

上鳥羽六斎ジュニアの指導で、参加者が四つ太鼓の演奏体験をする。

③新規会員の募集

○評価委員会から指摘された事項と改善点

・講座型のスタイルに留まっている。

・参加者同士の交流や関わりが希薄。

２　準備段階での工夫

・事業内容の相談の際に、講中は演者やスタッフといった担い手が少ないため、募集を行いたいとの意見があった。一般向けに広く募集活動を行ったことはないということだったので、内容について検討する中で、講中や上鳥羽六斎ジュニアがどういった団体であるかを参加者に紹介する時間を設けてはどうかとなった。資料作成や会員の募集チラシの制作は、講中が行うことになった。

３　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

・六斎念仏についての担い手の育成と地域の人材の発掘を目標とした。

（２）事業実施による目標の達成度

・講話の中で上鳥羽六斎念仏の現在の様子が語られたことで、講中と上鳥羽六斎ジュニアがどういった団体であるか理解を深めることができた。

・発表会ということで出演者の保護者も来られており、地域住民や保護者に練習の成果を披露することができた。
・今回の参加者の中から、後に講中の会員となった方が現れたと聞いている。目標としていた人材の募集については、一定の成果があったと思われる。

４今後の抱負

・「四つ太鼓の演奏体験」は、事前に担当者全員が集まることができず、内容についての打ち合わせが十分にできていなかった。講中および参加者の双方に好評であったが、事業の進め方について改善していきたい。
・上鳥羽六斎念仏を地域をあげて伝承、保存、支援していくために、方法について講中とも話し合い、他の団体と連携できることがあるかも検討していきたい。

事業風景の写真

【事業名】上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～　取組②　勉強会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要 1　開催日時：令和7年11月23日（日）13時～16時 2　開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター　第一会議室 3　参加人数：　7名 4　協力団体等：上鳥羽橋上鉦講中 5　予算：　107,000円　　／　決算：　48,620円

1　事業内容

「空也上人絵詞伝を読む」と題し、上鳥羽六斎念仏に関係する古文書を参加者とともに読んでいった。配布資料の作成には、講中とセンターが協力した。参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、チラシ等を活用して募集した。

六斎念仏についての説明、「空也上人絵詞伝」についての説明、実際に古文書を読んでいく、質疑応答という順に行った。古文書を読む際は、講師が読み内容を解説していくのではなく、参加者が1文字ずつ読み、講師が解説を加える形とした。

○評価委員会から指摘された事項

・講座型のスタイルに留まっている。

2　準備段階での工夫

・講中との話し合いの中で、地域住民に講中の活動に興味を持ってもらうために、講中が所有している古文書に関連する物語を取り上げてはどうか、ということになり実施した。
・読む文章は、初めての人でも読みやすい江戸時代の刊本のくずし字のものを採用した。
・講師からは、参加者が積極的に判読に参加できるような内容にしたいとの相談があり、検討を行った。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

・上鳥羽六斎念仏の活動や六斎念仏のことを地域住民に知っていただくこと。また、活動に興味を持ってもらうことで、講中の活動に参加するきっかけを作る。

（2）事業実施による目標の達成度

・講師が一方的に話すのではなく、参加者が積極的に発言したり質問したりできるような内容になった。
・参加者からは「平仮名は読めるようになった」との声があった。
・後日、参加者と講中との間で資料の受け渡しが行われるなど交流があった。

4　今後の抱負

・アンケートには「地域の事を知るのが楽しいです」という意見があり、今後も地域のことを取り上げた資料を読み解くことで続けていきたい。

・修了後にしばらくの間、講中と参加者が会議室に残って会話をされていた。後日、講中からは、参加者と交流の時間があるのは良かったとの意見があり、今後はそのような時間をあらかじめ想定しておき、参加者との交流を深めるきっかけを作っていきたい。

事業風景の写真

【事業名】地域課題事業　取組①　歌声サロン（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要 1　開催日時：第 1,3 金曜日　14 時 30 分～16 時　年 24 回 2　開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター　サロン、本館２階旧図書室 3　参加人数：123 人/年 4　協力団体等：なし 5　予算：　389,000 円　　／　決算：　382,380 円

1　事業内容

高齢者の認知症予防と住民の健康づくりを目指す。

①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、チラシ等を活用して募集した。

②講師は坂下正幸氏（音楽療法士）。認知症予防の講話と音楽、ボイストレーニング体操等の実技トレーニングに取り組んだ。楽器等は講師が用意した。

③センターは講師との連絡調整や会場設営などを行った。

○評価委員会から指摘された事項と改善点

・指導者が固定されている。

2　準備段階での工夫

・参加者の募集について、地域回覧板やチラシ、センターの Facebook などを活用する他、参加されている参加者（老人会の方や地域の町内会の方など）に参加者募集の呼びかけをしていただいた。

・使用する楽器の準備、片づけは参加者がこなすよう協力を仰いだ。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

・高齢者の認知症予防と住民の健康づくりと、参加者が継続して参加できることを重点とした。

（2）事業実施による目標の達成度

・各回の参加人数は平均 5 人で、継続して参加される方が多い。

・アンケートはしていないが、会話の中で、「運動不足の解消のため」、「健康のため」、「老化防止のため」、「他の参加者と話ができるので参加している」、「講話の内容が深くて楽しんでいる」などの声があった。

4　今後の抱負

・前年度（146 人）に比べて総人数が減少している。継続参加されていた方が体調不良で一時的に参加できなかったり、夏の暑さのために外出を控える方が多かったことが影響した。

・後半は新規の参加者があり、継続して参加者の募集を続けていく。
・講師と参加者との良好な人間関係など、好ましいつながりが形成されている。講師が固定化されていることについては指導者や参加者とも相談していきたい。

事業風景の写真

【事業名】地域課題事業　取組②　健康体操（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要 1　開催日時：第 1,4 木曜日　14 時～15 時　年 24 回 2　開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター　サロン、本館２階旧図書室 3　参加人数：59 人/年 4　協力団体等：京都市南区地域介護予防推進センター 5　予算：　149,000 円　　／　決算：　148,360 円

1　事業内容

①参加者の募集は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用した。

②京都市南区地域介護予防推進センター（推進センター）と連携した。講師は健康運動指導士で第１木曜日に参加し、もう一回は参加者のみで行った。

③体操の内容は推進センターが推薦するメニューで、ラジオ体操や筋力トレーニング、整理体操を行った。

④活動場所は本館２階旧図書室と、空調がないため夏季はサロンを利用した。

○評価委員会から指摘された事項

・講座型のスタイルに留まっている。

・高齢者に偏っている。

2　準備段階での工夫

・実施日について、参加者の希望をヒアリングし推進センターと調整した。

・体操の内容について推進センターと相談し、推薦するラジオ体操等の曲に合わせて行う体操を実施した。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

・月２回の体操を継続することで、生活リズムの改善や体調不良の改善、よりよい健康生活を獲得すること。

・健康体操の成果を地域に広げ、住民の健康志向を高めること。

（2）事業実施による目標の達成度

・前年度(118 人)と比べ参加人数が減った。６月下旬～10 月上旬の暑さのために外出を控えたという方が多かったことが影響している。

・熱心に参加される方があり、毎週あった方がいいという意見があるなど、よい習慣になっている。

4　今後の抱負

・推進センターからは参加者を増やすための協力をするという声があるので、新規参加者を募るため広報に努めていきたい。

事業風景の写真

【事業名】地域課題事業　取組③　卓球交流会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要 1　開催日時：令和 7 年 9 月 20 日（土）13 時～16 時 2　開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター　第一会議室 3　参加人数：23 名 4　協力団体等：なし 5　予算：　15,000 円／決算：　16,800 円

1　事業内容

①参加者の募集では、地域回覧だけでなく各センターや南青少年活動センター、南老人福祉センターなどにチラシを配布した。

②当センターを利用している卓球サークルに協力を呼びかけ、実行委員会を作った。

③実施内容やルールは実行委員会で相談して決めていった（交流を重視し時間を決めたラリー形式とする、相手が打ちやすいように心がける、など)。

○評価委員会から指摘された事項

・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性が求められる。

2　準備段階での工夫

・実行委員会を作り、事前に話し合いでルールや進行を確認し、当日の進行がスムーズに進むようにした。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

・卓球交流会を通じて、地域住民やセンター利用者の交流を促進し、多世代交流を図る。

（2）事業実施による目標の達成度

・前回よりも事前申し込みの人数や、普段はセンターを利用されていない方の参加が増え、様々な方の交流を実施できた。

・アンケートを見ると、おおむね好評であった。

4　今後の抱負

・アンケートでは高い評価を得ており、継続して実施していきたい。

・センターのサポートを減らし、参加者だけで企画、実施ができるようにしていきたい。

・事前申し込みの人数は 30 名を超えたが、体調不良などで実際の参加人数は減った。会場となる会議室の広さからいって、ちょうど良い人数であったので、募集人数について検討していきたい。

事業風景の写真

【事業名】地域課題事業　取組④　鯉のぼりによるまちづくり（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要 1　開催日時：A.令和 8 年 2 月 6 日（金）17 時～18 時 30 分 B.令和 8 年 3 月 7 日（土）14 時～16 時 C.令和 8 年 3 月 14 日(土)16 時 30 分～18 時、15 日(日)8 時 30 分～18 時 2　開催場所：A.上鳥羽小学校 B.上鳥羽南部いきいき市民活動センター　第一会議室、本館２階旧図書室 C.ひと・まち交流館 京都 3　参加人数：A.１名　B.14 名　C.３名 4　協力団体等：鯉のぼり保存会青仁会 5　予算：決算　218,000 円／62,794 円

1　事業内容

A.鯉のぼりを掲揚する場所探しを行い、京都市立上鳥羽小学校で場所の確認を行った。

B.センター内で、青仁会の今年度の活動の報告や活動の展示を行った。報告会では、年間の活動の報告以外に、青仁会のメンバーによる手描き鯉のぼりの展示や葦笛の演奏などを実施した。また、昨年も参加していただいた荒野麟太郎氏によるワークショップ（白地の布の鯉のぼりに鱗に見立てて手形を押していく）を行った。

C.ひと・まち交流館で開催され、市民活動センターと各いきセンが主催となる「みんなの文化祭」に参加し、活動の展示を行った。展示では、修理した鯉のぼりの展示や活動内容のパネル展示をし、青仁会のメンバーが常駐して来場者に活動内容の説明を行った。

また、これらの他に青仁会の活動の一つである使われなくなった鯉のぼりの収集活動について、センターも協力して収集の受付を行った。また、資料の作成や活動の広報について年間を通じて行った。

2　準備段階での工夫

・青仁会では毎年春に鯉のぼりを掲揚する活動を行われているが、次年度からはその場所を使用できなくなったとの相談を受けた。そこで、代わりになる場所探しに協力した。

・青仁会にはパソコンやインターネットに強い方がおらず、広報や資料作成をセンターがサポートした。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

・鯉のぼり保存会の活動を広く知らせることを目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

・青仁会にとって中心的な活動である春の鯉のぼりの掲揚について、地域の協力を得る事で次年度に実施できる見通しが立ち、会の活動への協力ができた。

・報告会では地域の方々に、「みんなの文化祭」では来場者やしみセンやいきセンのスタッフになど、上鳥羽地区以外にも活動を知ってもらう機会を得ることができた。

４今後の抱負

・青仁会からは年間を通じて相談があり、活動を支援するためのセンター側の体制作りをしていきたい。
・青仁会では共に活動に参加してくれる人を募集されており、センターでできることを検討していきたい。

事業風景の写真

A.掲揚場所

B.活動報告会

C.みんなの文化祭

【事業名】地域課題事業　取組⑤　みんなの文化祭（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要 1　開催日時：　令和 8 年 3 月 15 日（日）9 時～17 時 2　開催場所：ひと・まち交流館 京都 3　参加人数：16 名 4　協力団体等：なし 5　予算：　71,000 円　　／　決算：　22,400 円

1　事業内容

ひと・まち交流館京都で開催される「みんなの文化祭」に、センターを利用されているサークルや団体に参加を呼びかけ、作品や活動の展示を行った。

作品や展示物は、前日にひと・まち交流館京都に搬入して展示作業を行い、文化祭終了後に搬出した。

2　準備段階での工夫

・文化祭に参加するサークルや団体には、個別に呼びかけて募った。
・作品の搬送にあたっては、参加団体に協力を仰いだ。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

・サークル活動の活性化や、参加者同士の交流を目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

・作品を出展された方からは好評で、また参加したいとの声があった。
・参加者の中には文化祭当日に会場へ来ることができなかった方があり、写真で様子を伝えることになった。

4　今後の抱負

・サークルや団体の活動の活性化が見込まれるので、「みんなの文化祭」が実施されれば参加していきたい。
・作品の展示作業をセンター職員が行ったが、出展者にも担っていただけるようにしていきたい。

事業風景の写真

【事業名】地域課題事業　取組⑥　いきセンのある地域を知る（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要 1　開催日時：令和 7 年 12 月 14 日（日）13 時 30 分～15 時 30 分 2　開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター　第一会議室 3　参加人数：10 名 4　協力団体等：なし 5　予算：　0 円　　／　決算：　22,120 円

1　事業内容

センターの周辺地域を話題の対象として、地域に長く住まわれている住民とこの地域に興味を持つ市民が集まり、地域の特徴や位置づけについて地図から読み解いていった。

前半と後半に分け、前半は講師から地図の読み解き方法について話していただき、視点やコツを教えていただいた。後半は参加者が 3 グループに分かれてそれぞれが地図を囲み、地図を見て気づいた点や疑問、思い出といった内容を地図上にポストイットでマーキングしていった。最後に、それぞれのグループが気づきについて発表した。

作成した地図は、後日センターで一つにまとめて館内に貼り出し、さらなる情報提供を募った。

2　準備段階での工夫

・センターの周辺を対象とするので、事前に講師と散策し、周辺の街並みについて下調べを行った。また、若い講師の経験にもなるべく、センター利用者の傾向や地域への配慮について、十分な打ち合わせを行った。
・ワークショップでは、ただ講師から知識を教えてもらうのではなく、自分たちの住まう地域では何が大事で何に関心を持たれるのか、について参加者が自覚していく契機になるように努めた。
・地域のことをよく知る地域の住民や寺院に参加を呼びかけた。
・休憩時間などに参加者へ話題を提供にするために、関連する資料や冊子を京都市立図書館と連携し借り出した。

3　事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

・センターのある地域の特徴や地理的な条件について、参加者と考えること。
・今回の成果を次回の事業へも生かし、継続して事業へ参加する人材を発掘すること。

（2）事業実施による目標の達成度

・講師は 20 代の若手研究者で、参加者には親子での参加があり、全体的に若年齢化が見られた。
・ワークショップでは、地域外の参加者から地域からの参加者に対して、地域のことを知り

たいという熱心な問いが繰り返された。
・講師が教える講座だけでなく、参加者が教える側や探求する側になったりすることで、自主的な活動のイメージを持つことができた。
・市民活動の芽を育てていくきっかけとなった。

4　今後の抱負

・アンケートからは、次回も参加したいという声があった。今回を「いきセンのある地域を知る」シリーズの初回とし、実施した成果を次の事業に生かして積み重ねていきたい。
・次年度にはまち歩きの事業を計画しており、その前段階を実施できた。実施を継続することで“関心のある参加者たちによるゆるやかなコミュニティ”を形成していきたいと思う。

事業風景の写真

２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

２．サロン運営・活用事業

※サロン運営・活用事業はアンケートをしていない。

【事業名】ふれあい事業　取組①　マージャン交流（サロン運営・活用事業）

事業の概要 １　開催日時：第 1,3 月曜日、第 3 木曜日 10 時～16 時 ２　開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター　サロン ３　参加人数：534 人/年 ４　協力団体等：なし ５　予算：　221,000 円　　／　決算：　207,400 円

１　事業内容

①参加者は HP、Facebook、ポスター、チラシ等を活用して募集した。

②毎月 3 回、第 1,3 月曜日・第 3 木曜日、10 時～16 時に実施。

③参加者の中から世話役（代表者）を選び実行委員会を組織して進めた。ルールや活動内容は世話役を中心にして決めていった。

④講師はなく、参加者同士が教え合い、初心者にはゲームのルールを熟知している者が教える形とした。

○評価委員会から指摘された事項

・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性。

２　準備段階での工夫

・一回に参加する人数が増えたため、卓を１台追加した。

・手狭になってきたため、サロン内を広く使えるようサロン内の家具の配置を工夫した。

３　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

・男女や年齢を問わず、マージャンに関心のある人が集まり、世話役を中心にマージャンを楽しむことで、地域住民の連帯感を広げ、人間関係の構築を図る。

（２）事業実施による目標の達成度

・午前午後を通して参加される方が多く、熱心に参加されている。

・新規の参加者は既存の参加者による積極的な声かけによるところが大きい。

・初心者に対しては卓を１台使って良く知った方が教えておられ、初心者でも始められやすいように工夫をされている。

・大会を開くなどの企画運営を自主的に実践されている。

4　今後の抱負

・4 台の麻雀卓を使用することになったが、サロンでは収容できる人数が限られており、かなり手狭になってきた。参加者は増やしていきたいが検討していきたい。

・出欠票や名簿などをセンターが作成しているが、参加者が担えるように促していきたい。

事業風景の写真

【事業名】ふれあい事業　取組②　造形教室（サロン運営・活用事業）

事業の概要 1　開催日時：第 4 日曜日　10 時～正午　年 12 回 2　開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター　サロン 3　参加人数：61 人/年 4　協力団体等：なし 5　予算：　161,000 円　　／　決算：　159,960 円

1　事業内容

俳句と俳画の制作を中心に行った。

①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシで参加者を募集した。

②創作活動は、次のように進めた。

1.参加者は実施日が来るまでに各自俳句の構想を考え、メモやノートに書いて参加する。

2.講師と俳句の表現方法について相談し、推敲する。

3.詠んだ句を色紙に墨で表現する。

4.ちぎり絵や水彩画など絵を添えて完成させる。１回につき１作品の完成を目指す。

③作品はセンター内に掲示したり、Facebook へ掲載したり、「みんなの文化祭」に出展するなどして作品を発表する機会を設けた。

○評価委員会から指摘された事項

・高齢者に偏っている。

2　準備段階での工夫

・画材（色紙、筆、墨、ちぎり紙など）を準備し、必要があれば参加者が利用できるようにしておいた。

・センターは講師との日程の調整や連絡、活動のサポートにあたった。

3　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

・参加者は俳句を詠むこと、絵を描くことの技能アップを目指す。

・作品を発表して、俳句を地域に広める。

（２）事業実施による目標の達成度

・どの参加者も１回に１作品を完成させることを目標に取り組まれている。新しい参加者も、創作に励まれている。

・未完成の作品は持ち帰って完成させたり、他の参加者の俳句の推敲に参加したりするなど、意欲的に参加されている。

・参加者による声かけで新しい参加者が増えているものの、高齢者のみの参加にとどまって

いる。

4　今後の抱負

・俳句の推敲を一人ずつ順番に行っているため、参加者が多いと時間がかかり、色紙に完成させることができない参加者があった。講師からも時間がかかってしまうと相談を受けており、進め方について検討していきたい。

・参加者が高齢者のみとなっている。講師と参加者と相談し、若年層の参加について考えていきたい。また、講師に頼らない創作の場として活動していくことができるか、参加者と考えていきたい。

事業風景の写真

【事業名】ふれあい事業　取組③　フラワー教室～花アトリエ講師育成実践講習会～（サロン運営・活用事業）

事業の概要 1　開催日時：第2土曜日　10時～正午　年11回 2　開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター　サロン 3　参加人数：59人/年 4　協力団体等：なし 5　予算：　291,000円　　／　決算：　286,000円

1　事業内容

地域在住のフラワーデザイナーが講習会を開催。受講者が講習会の成果を地域に広げていく。

①６年度の講習会を修了した方が参加者となった。

②指導は講師が行い、センターは連絡調整や運営をサポートした。

③前期と後半に分けて進めた。前期は、参加者が講師役を務めて順番に教える側に回ることで技量アップを目指した。後半は、フラワーコンテストの準備を中心に進めた。

④参加費は材料代（花代、花器含む）として１回3,300円を徴収した。

⑤参加者の作品をフラワーデザインコンテストに出展した。

○評価委員会から指摘された事項

・講座型のスタイルにとどまっており、市民活動支援の取組が求められる。

・講師が固定化されている。

2　準備段階での工夫

・センターは講師との連絡調整や相談、会場設営をサポートした。

3　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

・参加者が講師としても活躍するための力をつけ、その成果を地域に広げていく。

・地域にフラワー文化が広がってくことが期待される。

・参加者も目的があるため、目標に向かって努力をされる効果が期待される。

（２）事業実施による目標の達成度

・コンテスト（日本フラワーデザイナー協会京都支部主催「第27回京都府立植物園フラワーデザインコンテスト」）に４名出展し、３名が入賞された。成果の一つといえる。

・事業の実施時間以外にコンテスト作品の制作で利用されるなど、フラワーアレンジメントの活動が活発になってきているように見受けられる。

4　今後の抱負

・参加者の活動の場をセンターの外へ広げていきたいと考えており、次年度には児童館との連携を予定している。

事業風景の写真

３．利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

１　利用料金の収入実績

令和７年度実績：745,800 円（前年度比 119%　令和６年度実績：627,300 円）

（内訳　会議室等：　745,800 円
　　付属設備：　　0 円　※自主事業分を除く）

２　管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

４．施設の利用者満足度の把握

１　利用者満足度の把握状況

（１）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和７年 11 月実施

【調査項目】窓口サービス

（２）センター独自アンケート

６事業（上鳥羽六斎念仏発表会、勉強会、卓球交流会、鯉のぼりによるまちづくり、みんなの文化祭、いきセンのある地域を知る）について、下記の設問にてアンケートを実施した。値は６事業の平均値とした。

設問１　年代
設問２　どうやって知りましたか
設問３　実施したことについて
設問４　内容について
設問５　センターの対応
設問６　自由記載

２　利用者満足度把握の結果

（１）全センター共通窓口サービス　７項目の平均

満足	普通	不満	無回答
88.4%	11.1%	0%	0.5%

（２）センター独自アンケート

設問１　年代

	10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上	未記入
平均	4.3%	3.5%	2.3%	7.7%	3.5%	8%	52.8%	16.7%	1.2%

設問２　どうやって知りましたか

	センター	チラシ	知人	新聞	ネット	その他	未記入
平均	49.7%	10.7%	29.3%	0%	5.8%	3.4%	1.2%

設問３　実施したことについて

	よかった	どちらでもよい	よくなかった	未記入
平均	92.2%	1.8%	0%	6%

設問４　内容について

	満足	普通	不満	未記入
平均	85.3%	11.7%	0%	3%

設問５　センターの対応

	満足	普通	不満	未記入
平均	81.2%	16.3%	0%	2.5%

設問６　自由記載

○上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～

（発表会）

・実際に支えている人たちの苦労ややりがいがよく判りました。
・地域振興に役立ち、文化継承上意義深い。
・四つ太鼓の体験ができたのは、楽しかったです
・また機会があれば、是非やってほしいです。

（勉強会）

・質問しやすいのが一番良いと思います。地域のことを知るのが楽しいです。
・久しぶりに頭を使った感じがした。
・内容が深く勉強になりました

○卓球交流会

・いろんな人とゲームが出来て楽しかったです。
・いろんな方と卓球できて楽しかったです。
・また参加させて下さい。初めての方と対戦でき楽しかったです。

○鯉のぼりによるまちづくり

・非常に良い企画で楽しませていただきました。準備が大変だと思います。
・いろんな事業活動が増えてとても良い事だと思います。
・日本の文化のこいのぼりを子供達に伝えていきたい。いきいきセンターは老人だけでなく、いろんな行事で身近な集いの場所であってほしい。

〇みんなの文化祭

・今回は見学に行かなかったのでよくわかりませんが、次回は行きたいと思います。

・昨年と違い今年は大分よくなっている２回目だからと思う。

〇いきセンのある地域を知る

・また続きがあれば、来たいです。

・大正時代の地図（京都市内）や昭和 28 年の地図や現在の地図を見せて頂き、わからなかった地名など大変勉強になりました。

・地図好きの方が多く、各自の関心の持ち方が非常におもしろかった。

・ワークショップたのしかったです。地元にずっと住んでおられる方、地図に詳しい方のお話をいろいろうかがえてよかった。

3　意見等への主な対応状況

利用者からの意見で対応したものを記載してください。

・以前から、サロンの利用者から畳が古くなって毛羽立っているとの指摘をいただいており、今回上敷きを設置した。

・以前からダンス利用の方から要望あり、折り畳みの姿見を導入した。

５．指定管理者による管理運営業務の自己評価

〇取り組んだ事業等の総括

・貸館の利用は増加しており、定期利用されるグループも増えて未利用時間の利用も増えている。新しい利用者はネット検索でセンターを探して問い合せをされることが多く、貸館情報の発信は上手くいっていると感じる。

・昨年に続いて、地域で活動されているグループ（鯉のぼり保存会青仁会）の支援を実施した。今年度は、センターが会と地域の小学校との橋渡しをすることで、会の活動を広げる一助になれたと感じている。また、「いきセンのある地域を知る」では、地域に根差した自主的な活動に関心を持つ人材の発掘を目指して取り組んだ。その成果については次年度にも繋げていこうと考えている。

・令和４年度から実施しているサロン運営活用事業の“マージャン交流”では、参加者が増えてきているだけでなく、参加者が自主的に企画運営をされるようになってきている。またセンターを利用されている他のサークルからも参加される方があり、交流の場になってきている。サロン運営活用事業については、引き続き参加者の交流の場としつつ、活動の成果を外へ広げるよう促し自走化へ向けていきたいと考えている。

〇今後、解決すべき課題等

・評価委員会からの指摘（参加者の固定化や講座制が目立つこと、双方向型の市民活動の支援）については、今後も改善していく。

・職員間で貸館業務や事業の実施についての力量にばらつきがあり、業務に偏りが生じている。

〇次年度に向けた対応

・利用促進については、一般の利用だけでなく事業者利用でも、利用例などの資料を充実させセンターの周辺から広げていきたい。

・事業については、各事業にどうやって市民活動支援の側面を取り入れるか、講座型ではなくワークショップ型の参加入口をつくっていくことを中心に、見直していく。

・定例ミーティングを開催することを通じて、センター職員のスキルアップに努めていきたい。

６．その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

〇施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項

特になし。

〇年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業

なし。

京都市上鳥羽南部　　いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和７年度分）

指定管理者名　株式会社丸起

代表者名　藤木輝幸

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		**11,234,000**	11,234,000	0
利用料金収入		**412,020**	745,800	333,780
	会議室等	**412,020**	745,800	333,780
	スモールオフィス			0
	付属設備（自主事業を除く）			0
その他収入	光熱水費分担金			0
	個別事業参加費			0
				0
当期収入合計		11,646,020	11,979,800	333,780
【支出の部】 １．施設運営業務				
人件費		6,832,000	8,433,692	▲ 1,601,692
	職員４名		6,982,935	▲ 6,982,935
	非常勤職員２名		0	0
	法定福利費		1,045,816	▲ 1,045,816
	福利厚生費		404,941	▲ 404,941
光熱水費		1,300,000	939,757	360,243
	電気代		800,399	▲ 800,399
	ガス代		23,399	▲ 23,399
	水道代		115,959	▲ 115,959
施設管理費		546,000	359,000	187,000
	樹木剪定		0	0
	定期清掃等		150,000	▲ 150,000
	機械警備		105,600	▲ 105,600
	消防保守点検		48,400	▲ 48,400
	ＥＶ保守点検		0	0
	空調保守点検		0	0
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検		0	0
	自家用電気工作物		0	0
	雑用水用給水設備		0	0
	建築設備点検		55,000	▲ 55,000
	空気環境測定等		0	0

事務費		500,000	1,333,781	▲ 833,781
	電話代		111,264	▲ 111,264
	事務用品		150,529	▲ 150,529
	雑費		0	0
	センター運営費		426,508	▲ 426,508
	ホームページ費		151,800	▲ 151,800
	カラオケリース費		198,000	▲ 198,000
	空調機器リース費		295,680	▲ 295,680
修繕費		0		0
				0
				0
備品購入費（５万円以上の物品）				0
				0
				0
租税公課				0
	○○税			0
その他			14,400	▲ 14,400
	賠償責任保険保険料	0	14,400	▲ 14,400
	諸会費	0		0
施設運営業務支出合計		9,178,000	11,080,630	▲ 1,902,630
２．事業実施業務				
市民活動支援・活性化事業費		1,146,000	759,554	386,446
	上鳥羽橋上鉦講中「上鳥羽六斎念仏」～継承と発展～	304,000	104,700	199,300
	歌声サロン	389,000	382,380	6,620
	健康体操	149,000	148,360	640
	卓球交流会	15,000	16,800	▲ 1,800
	鯉のぼりによるまちづくり	218,000	62,794	155,206
	みんなの文化祭	71,000	22,400	48,600
	いきセンのある地域を知る	0	22,120	▲ 22,120
サロン運営・活用事業費		673,000	653,360	19,640
	マージャン交流	221,000	207,400	13,600
	造形教室	161,000	159,960	1,040
	フラワー教室	291,000	286,000	5,000
その他	事業実施業務繰越			0
事業実施業務支出合計		**1,819,000**	**1,412,914**	406,086
当期支出合計		**10,997,000**	**12,493,544**	▲ 1,496,544
当期収支差額		649,020	▲ 513,744	▲ 1,162,764

資料様式

令和７年度　事業報告書
上鳥羽北部いきいき市民活動センター

【指定管理者：一般社団法人　上鳥羽絆会】

１．管理運営の状況

１　施設運営業務

（１）職員体制

センター長１名、職員５名（常勤２名　非常勤４名）

【人材育成の取組】

・職員定例全体会議：全員出席　１回/月（毎月第１火曜日午前９時から）

当法人絆会会長も出席して、その月の事業予定の確認や日常業務についての意見交換を行います。月替わりで議長役を交代して会議進行の技術を身につけられるようにしています。

・事業会議：職員はそれぞれの希望により、市民活動支援及びサロン事業の担当責任者を務めます。そこで担当責任者が必要と判断した時に事業会議をもち、意見交換や進捗状況の確認を行い、内容をセンター長に報告します。滞っている時、困った時などはお互いが遠慮なく率直にアドバイスし合えるような雰囲気を目指しています。

・職員研修：「地域ケア会議」１１月、３月

（２）貸館等

ア　利用件数

（月別）

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
４４	５６	４９	５４	４９	４７	５９	５４	６４	５８	６５	６３

（年間）

令和６年度：６５４件　　⇒　　令和７年度：６６２件（前年度比　１０１％）

部屋別（件）

合計（上・下期）	
会議室①	133
会議室②	371
和室	158
合計	662

時間帯別（時間）

合計（上・下期）	
午前	327
午後	467
夜間	254
合計	1048

イ　利用状況

上期は昨年よりも実績が振るわず、件数増加の手立てを思案していましたが、下期の６カ月間は各月とも昨年よりも件数が多くなり、最終的には前年度比１０１％の微増となりました。その理由としては、１０月から新規で週１回キッズダンスのレッスンで利用される団体があったことだと思います。子ども達にダンスの楽しさを伝えることと付き添いの親たちの交流の場の提供を目的に始められた団体ですが、徐々に生徒数が増えて、利用時間も２時間から３時間に延長されました。また、地域の高齢者団体（末広会）が活動の活性化を図り、交流事業の回数を増やされたことも大きいです。時間帯別では、夜間の利用時間が全体の２５％未満となっており、その時間帯の利用者の呼び込みも課題です。

ウ　利用促進に向けた取組

南区内にあった施設の閉鎖に伴い、そこでレッスンを開催しておられたいくつかの団体が当センターをインターネットで検索して、見学を兼ねて相談に来られるケースが数回ありました。皆さん、初めて「いきいき市民活動センター」のことを知りましたとおっしゃいます。そのようなときも丁寧に施設の案内をして、利用に繋がるような対応を心がけました。また、費用面で常々議題になる通信カラオケ装置のリース契約も利用のきっかけとするために継続しています。

長くセンターを利用されているお客様には、センターのことを口コミで広げてもらえるような声掛けをするなど、利用促進に向けた取組については、常に意識しています。

エ　その他

サロンについては、平常時の自由使用は少ないです。事業の実施日には一定の参加者があり、その人たちがサロンに常設の〈ことしょ〉を利用するために立ち寄られることがあります。

サロン運営・活用事業のなかでは様々な発展がみられるようになりました。**2**の項目に後述します。

（３）情報発信等

ア　取組実績

情報発信については、センター独自のものとして「いきセンニュースレターつなぐ」を年２回発行しました。市政協力委員さんの協力を得て、学区全戸への配布を今年度も行うことができました。

事業の広報はSNSや紙媒体のチラシで行いました。SNS上で事業の申込や問合せをされる方も年々増えているので、メールと同じような頻度でチェックをするよう心がけています。

イ　取組の効果

介護美容の活動をされている団体とインスタグラムで繋がり、事業の講師として参加していただきました。また、地域の団体の活動をインスタグラムで発信したところ、問合せがあり紹介することもありました。

「いきセンニュースレターつなぐ」はホームページ上にバックナンバーを載せているので誰でもいつでも見てもらうことができ、地域以外にも発信を広げています。

（４）管理運営

・センター長を防火管理者に選定
・同法人の中唐戸児童館の避難訓練（火災､地震）に参加
・日常の点検として各部屋、建物外周などを勤務職員が清掃時などに点検：毎日２回
・建物安全チェックシートにて点検、自治推進室に報告：毎月１回
・雨水排水口、屋上（太陽光パネル）を点検：年２回
・建物総合点検：年１回
・消防点検・館内清掃：年２回
・樹木剪定：年１回
・施錠後保安警備：毎日

（・建物総合点検～・施錠後保安警備）：外部業者に委託

・施錠後保安警備：毎日　等を実施

（５）その他

「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」

・地域や利用者の声をきき、運営に反映させることと同じくらいにセンター内での意見交換も重要と考えます。今年度、センター内のトイレを洋式に入れ替えていただきました。きれいな状態を持続させるためにも今まで以上に清掃に気をつけることと各部屋の清掃も再度同様に意識することを共有しました。清掃の件だけでなく、職員が同じ意識をもち業務に従事することが施設運営の質を高めることにつながると思います。

・地域や住民のために何かできることはないか？という思いが一致した地域の２か所の施設とセンター３者が一緒に考え、行動を起こそうと３月に合同のイベントを実施しました。学区にとらわれず、南区社会福祉協議会や陶化包括支援センターからも協力をいただきました。これまでの地域交流で培った団体や個人の方々との信頼関係が実を結んで一歩を踏み出せたと感じています。他にも学区で開催される事業や行事にはできるだけ参加するようにして、交流を保てるようにしてきました。声がかかれば事業の実行委員会にも入り、協働を通して〈いきいきセンター〉をより身近で、なくてはならない施設として受け止めてもらえるように努めました。

２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】エコ活動事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

１　開催日時：令和７年　４月　～　令和８年　３月

２　開催場所：上鳥羽北部いきいき市民活動センター、学区内公園、中唐戸児童館、イオンモール桂川、立誠学区、右京区役所、醍醐いきセン、吉祥院いきセン、国際交流会館

３　参加人数：３７７名（把握できている人数）

４　協力団体等：認定 NPO 法人きょうとグリーンファンド、エコ学区サポートセンター
中唐戸児童館、醍醐いきセン、吉祥院いきセン、京都市環境保全活動推進協会

５　予算：　１，０９０，０００円　　／　決算：　１，１０９，５４４円

１　事業内容

○　地域の有志や関係団体で構成された任意団体「上鳥羽エコまちくらぶ」が企画・運営に関わり、多様な世代に向けて様々環境活動の体験の場をつくりだしました。

・エコ体験（８月）：展示品に触れたりゲーム等を通じて環境への知識を得る　子ども対象

・自然観察会（１１月）：学区内の公園の自然を観察して多種多様な植物の営みを知る

・エコマルシェ（６月、９月、１１月、１２月、２月、３月）：センター内や地元地域にとどまらず、ロケットストーブを軸にした環境の啓発活動を実施

・児童館との取組（通年）：中唐戸児童館と連携をとり、子どもたちと共に環境活動を実施

２　準備段階での工夫

○　京都市環境保全活動推進協会の協力のもと、“どこでもトーク”の講師依頼を受けて他の地域でも環境活動の啓発ができました。特に大型商業施設内での事業は主催者との打合せや下見を入念に行いました。

３　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

○「上鳥羽エコまちくらぶ」と伴走して地域外にも活動を広げていくことが目標。

（２）事業実施による目標の達成度

○　７ 年度は２か所のいきセンさんの事業のなかでエコブースを出展させてもらうことができました。どちらも地域に根付いた大きな事業であり、打合せの段階から参加することで当日までの参加団体への配慮や運営の方法など見せてもらうことも新たな学びとなりました。また、山科区内の児童館でも啓発活動を実施することができ、遠方ですが中唐戸児童館との連携のきっかけづくりができました。

○　アンケート結果「自然観察会」

・見るのも大事だけど残すのも大事だとおもった：５年生

・いつも公園を歩いていて何も思わなかったが、今後は植物の観察を楽しみたい：７０代

４　今後の抱負

○　次年度も今までのことをブラッシュアップしながら継続させていきたいと考えます。同時に賛同者を増やしていくことも重要と考えます。

８月　エコ体験

１０月　立誠学区
ロケットストーブワークショップ
（2050CO２ゼロどこでもトーク）

１１月　自然観察会

９月　イオンモール桂川
Live do you Kyoto

２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】コミュニティガーデン「ohana」支援事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

１　開催日時：令和７年　４月　～　令和８年　３月

２　開催場所：上鳥羽北部いきいき市民活動センター会議室　コミュニティガーデン「ohana」

３　参加人数：１７８名（団体）

４　協力団体等：いきいき上鳥羽プロジェクト、あんしんあんぜん上鳥羽推進委員会、上鳥羽向上委員会

５　予算：３２５，０００円　　／　決算：３２４，８７５円

１　事業内容

○　地域の声からうまれたコミュニティガーデン「ohana」を拠点として、子どもから高齢者まで多世代の交流をすすめ、地域の活性化・緑化・防犯・自然環境保全に努める任意団体「ohana 会」の活動を年間通して支援しました。また、センターの市民活動支援の最終年度であることを念頭に事業展開しました。

・花を通した子ども育み事業（通年）：中唐戸児童館児童との《こどもかだん》事業を支援

・花の町づくり事業（通年）：上鳥羽自治連合会内団体のプランター設置事業に協力

・ローズウィーク開催（５月）：バラの開花時期に合わせて他団体と協力しながらイベントを実施。チラシ配布等の広報を支援

・ガーデン勉強会（１１月）：バラの剪定などを学ぶ会の広報や環境設定を支援

・助成金申請情報、書類サポート（通年）：助成金申請情報の共有や書類作成をサポート

２　準備段階での工夫

○　ohana 会会員との連携や信頼関係を深めるためにもセンター職員は普段からともに草抜きや清掃などガーデンの維持活動を行ってきました。

○　ローズウィークが近くなるとガーデンの様子を頻繁に SNS に挙げて PR しました。

３　事業実施による効果・達成度

（１）　当初の事業効果，目標等

○　ガーデンが多様な人たちが集まり繋がることができる場となることと、団体が熱意を持ち続けながら自走化してもらうことが目標

（２）事業実施による目標の達成度

○　貸館利用者から新たに中心となって活動に参加してくれる人があらわれたり、会員が団体として団結し、吉祥院いきセンや市民活動センターの事業に積極的にブース出展してもらえたことが頼もしく思えたと同時に目標の達成感も感じることができました。

４　今後の抱負

○　センター支援事業の最終年度としての取組を年間通して行ってきました。そのなかで《セブンイレブン財団》の助成金申請が採択されたことは、次年度からの団体の活動の後押しになると思います。センターは今後もサポーターとして活動を見守っていきます。

４月　見守りプランター

５月　ローズウィーク

４月　子どもかだん植え込み

１２月　吉祥院いきセン〈ふれあいひろば〉

２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】いきいき上鳥羽プロジェクト（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

１　開催日時：令和７年　４月　～　令和８年　３月

２　開催場所：上鳥羽北部いきいき市民活動センター会議室　学区内公園３箇所　上鳥羽小学校等近隣施設や事業所

３　参加人数：　延べ 2,099 名

４　協力団体等：上鳥羽ネットワーク　ohana 会　上鳥羽小学校　洲崎排水機場　上鳥羽自治連合会

５　予算：１，２４０，０００円　／　決算：１，３１５，８７２円

１　事業内容

○　地域の有志メンバーで構成された「いきいき上鳥羽プロジェクト」のサポートと協働を通して地域課題の発掘と解決、個人や団体同士の出会いの場づくりの支援などを行いました。

・ふらっとスペース（５月,１２月）：地元企業や施設と連携した地域交流事業実施の支援
・見守りプランターづくり（４月）：学区内の連携事業　ohana 会と地域との繋がりを支援
・いきいき健康づくり事業（通年）：各公園のラジオ体操サポーター支援と健康に繋がる事業の提案と実施を支援
・上鳥羽の歴史を探る（通年）：小学校の郷土資料室の維持活動手伝いと学区の水害に対する高い意識の表れを事業化することを支援
・コミュニティー回収（毎月１回）：南エコまちステーションの助成事業を活用し環境活動
・ニュースレター「つなぐ」発行（８月,１２月）：地域の情報発信を目指して発行

２　準備段階での工夫

○　上鳥羽の歴史を探る事業では、２年前から水害に係ることを取材したり講演会を行ったりしてきました。今年は普段ほとんど一般見学を受け入れない施設の見学の実現のため、自治会を通じてスタッフの思いを施設に伝えて交渉してもらいました。

○　ニュースレター「つなぐ」の発行は、若手ボランティアスタッフのアイデアで紙面に新たなコーナーができました。活動時間が限定されるなか、情報の取りまとめや構成など互いの負担が少なくなるよう配慮しています。

３　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

○　「いきいき上鳥羽プロジェクト」が地域の様々な場所に出向き、課題を拾いながら事業の企画や運営を行っていくことの支援が地域全体の住民同士のつながりの深まりやこれからも地元を大切にする気持ちの基盤に繋がっていくことが目標

（２）事業実施による目標の達成度

○　今年もプロジェクトメンバーは増えることも減ることもなく、一年間意欲的に活動してもらうことができました。その熱意が住民の皆さんへも伝わっていると実感できることも多いことに達成感を感じます。

○　ラジオ体操サポーター意見交換会での感想

・高齢化により、体操の参加者が減少してきたので広報について再度考えていきたいと、これからの課題にしていくべき意見がありました。サポーターの皆さんもラジオ体操事業の今後についていろいろと考えてもらえていることが頼もしく思います。

4　今後の抱負

○　プロジェクトメンバーを増やしていくことはなかなか難しいと思いますが、ピンポイントで事業に関わってもらえるようなボランティアスタッフがうまれれば、今後の自走化がもっとスムーズになるのではないかと思います。

5月　ふらっとスペース

12月　しめ縄作り(藁掃除)

3月　出張ふらっとスペース

11月須崎排水機場見学会

２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】おひさまカフェ（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要
１　開催日時：令和７年　４月　～　令和８年　３月
２　開催場所：上鳥羽北部いきいき市民活動センター　会議室　等
３　参加人数：１７１名（団体）
４　協力団体等：朗読同好会、マイルド山本マジック教室、介護レク、ブーゲンビリアチーム
５　予算：　５５５，０００円　　／　決算：　５６０，０７５円

１　事業内容
○　月に一度、決まった時間に誰もが気軽に足を運んで催しや交流を楽しめる場所づくりともなるよう、年齢や性別を問わず、互いを尊重しあえる場所であることを基本に毎月の事業を展開。また、活動の企画運営の協力者を発掘、自主的な活動を目指し担い手の育成と支援に注力しました。
・利用者交流会(毎月１回)：センター利用者や事業参加者からのニーズや市民活動をされている方の提案から、「うたごえカフェ」、「朗読会」、「お涼みカフェ」、「ルーシーダットン体験」、「介護美容のお話しとハンドケア体験」「クリスマス会（利用者発表会)」など、月毎のテーマを実施しました。

２　準備段階での工夫
○　参加者の「こんなことがやってみたい」の声から月ごとのテーマを設定する中、来館者や別の事業での交流やＳＮＳを通し情報を得たり人脈の広がりを意識して取り組みました。そのような中、ボランティアスタッフが「介護美容を広げる活動」をされている方と知り合いということで、Instagram の DM のやり取りから「介護美容のお話しとハンドケア体験」を実施し、介護は、する側にもされる側にも知らず知らず負担がかかりストレスになっていくもの。ネイルやメイク、ハンドケアなど簡単な介護美容を体験することで双方が“笑顔”になる。などをお話しいただき、新たな繋がりができました。介護レクの代表者からは、「自らの活動のＰＲにもなりました。」と今後の協力も申し出てくださり、「介護」という身近なテーマでもあり、参加者からも期待の声が寄せられ好評の企画となりました。

３　事業実施による効果・達成度
（１）　当初の事業効果，目標等
○参加者同士の交流のなかで、自ら楽しみを見つけ共有しあうことで自身だけでなく、地域の活性化にもつなげていくことが期待する効果でしたが、同時に事業内で「何かやってみたい」の思いを持つ人を支援すること、また、協力者を増やすことも目標にしました。
○市民や団体に積極的に参加してもらうことで、活動への理解を深め、参加者自らが興味や楽しみをみつけるなど一緒に活動する仲間づくりの場ともなることも目標。
月に一度決まった時間に開催することで、外出のきっかけにもなっています。
○うたごえカフェは、提案者の活動の自立・自走化が目標。

（２）　事業実施による目標の達成度
○参加者同士の交流が活発になり、参加者の中から自ら「やってみたいこと」の提案が出てきたことで事業に対するモチベーション向上につながりました。
○「うたごえカフェ」の提案者は、企画の実現のため自ら活動スタッフとも連携し運営がスムーズに組み立てられ、主体的に活動を進められたことは成果であると思います。加えて担当職員は伴走者としての役割を務めたことで事業実施の達成度は高いと思います。
○「今月はどんなテーマかな？」「もう一回○○のテーマで開催して欲しい」「声を出して歌うことが楽しい！」「うたごえカフェの回数を増やしてほしい」などの感想が寄せられ、参加者からは好評でした。

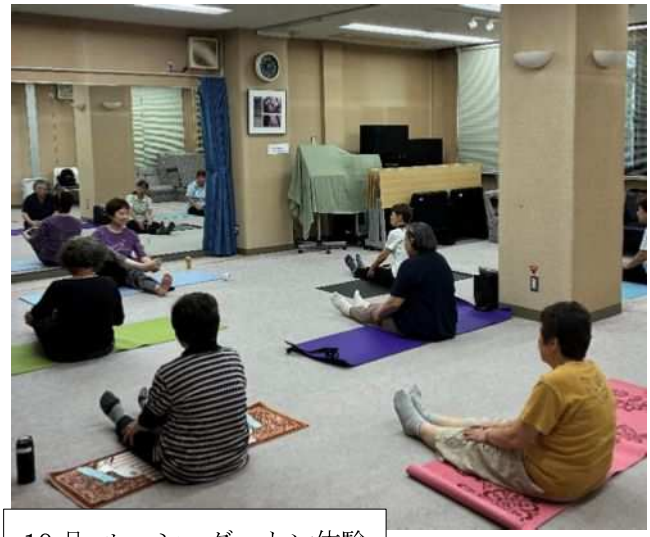
4　今後の抱負

〇「おひさまカフェ」が交流の場として定着し、何かしらの活動に参加したい者同士が各々の活動の PR と"仲間づくり"の場ともなってきています。今後は、そこから生まれた"仲間"同士での新たな活動の立ち上げに協力するなど「スタートアップ」支援に取り組みます。

・活動者とボランティアスタッフの連携がより強固になり、運営のさらなる自走化を目指すとともに、担い手の育成と支援を継続します。

4 月　朗読会

12 月　クリスマス笑(利用者発表会)



10 月　ルーシーダットン体験

9 月　うたごえカフェ

2 月　介護美容のお話しとハンドケア体験

２．市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】なごみスペース～ようこそ～事業（サロン運営・活用事業）

事業の概要

１　開催日時：令和７年　４月　～令和８年　３月

２　開催場所：いきいき市民活動センター　サロン　会議室　等

３　参加人数：６１０名（団体）

４　協力団体等：いきいき絵本クラブ

５　予算：５４０，０００円　　／　決算：５２２，１８５円

１　事業内容

○　多様な人たちが交流できる“なごみのスペースづくり”を参加者自身がつくりだせる支援を行い、市民の社会活動のきっかけとなるような事業を展開しました。

・いきいき Wednesday（通年）：毎週水曜日を活動の日として、折り紙や体操、淹れたての珈琲を楽しむなど多様な活動を実施

・講演会（10 月）：「おんがくあそびコンサート」として、幼児から大人までが参加

・ぴゅーぴる Saturday（通年）：土曜日午前中の小学生の活動の場づくり

・よるからと（８，１０，１月）：中唐戸児童館と共催　中高生が自主的に活動する場の提供

・クールシェアエアコン（８月）：学習会やワークショップを実施

２　準備段階での工夫

○　講演会の講師は活動スタッフが所属している音楽ユニットに出演してもらいました。コンサートまでの準備や当日の対応など本人が中心となりスムーズに進めることができました。

３　事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

○　サロンが〈個と社会をつなぐ拠点〉〈多様な世代間交流がうまれる拠点〉となることが目標

（２）事業実施による目標の達成度

○　シェアエアコン期間に“きょうとグリーンファンド”の紹介で、家電リサイクル専門工場の出前授業を実施しました。子どもから大人までが参加し、交流できました。

また、「おんがくあそびコンサート」も同様に多世代が参加して楽しめる事業になったことは、サロン事業の発展を実感できました。

○　アンケート結果「おんがくあそびコンサート」

・久しぶりに子どもたちと一緒に歌ったり遊べたり、本当に楽しかった：６０代

・楽器の演奏も唱歌から今の曲まで、皆が楽しめたと思う：７０代

など、こちらのねらいと同様な意見をいただけたことは、よかったと思います。

４　今後の抱負

○　今年度から中唐戸児童館と中高生企画を共催していくなかで、いままで接点が少なかった中高生の声をきくことができるようになりました。そこから、夜間のサロンを「学習スペース」として、提供する事業を計画しました。

今後もサロンならではの自由度と柔軟性を活かせるような事業を参加者の声を拾いながらともにつくりあげていきたいです。

３月　お祝いタペストリー作り

８月　環境出前事業

１０月　おんがくあそびコンサート

１月　よるからと
ユースさん☆ようこそ

３．利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

１　利用料金の収入実績

令和７年度実績：５１７，６００円（前年度比 111％（466,100 円））

（内訳　会議室等：５１７，６００円
　　付属設備：該当なし　※自主事業分を除く
　　スモールオフィス：該当なし）

２　管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

４．施設の利用者満足度の把握

１　利用者満足度の把握状況

（１）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和７年１１月実施

【調査項目】窓口サービス

（２）センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

２　利用者満足度把握の結果

（１）　全センター共通窓口サービス

①　案内表示はわかりやすかったですか

満足	普通	不満	無回答
６９・６％	２８・７％	０・９％	０・９％

②　あいさつやお声かけはきちんとできていましたか

９３・０％	７・０％	０・０％	０・０％

③　身だしなみは業務にふさわしいものでしたか

９０・４％	９・６％	０・０％	０・０％

④　表情や態度は感じよかったですか

９０・４％	９・６％	０・０％	０・０％

⑤　言葉使いや説明は、親切でていねいでしたか

９３・９％	６・１％	０・０％	０・０％

⑥　説明は的確で分かりやすかったですか

８７・８％	１１・３％	０・０％	０・０％

⑦　整理、整頓は行き届いていましたか

８８・７％	１１・３％	０・０％	０・０％

（２）　センター独自アンケート

・自然観察会（エコ活動）：概ね満足

・エコ体験（エコ活動）：概ね満足

・クリスマス笑（おひさまカフェ）：概ね満足

３　意見等への主な対応状況

〇アンケート内で「和室にも鏡がほしい」とありました。移動可のものがあるそうなので安全面と費用を検討中です。また、普段から各部屋と受付前に「ご意見箱」を設置して気軽に声がいただけるようにしています。その中で、乾電池の回収に困っている、との声があったので、回収 BOX を設置しました。天ぷら油・牛乳パックと一緒にまち美化さんが引き取っていかれます。

５．指定管理者による管理運営業務の自己評価

・取り組んだ事業の総括

・貸館事業については前年度よりも微増となりましたが、目標件数の７００件には届きませんでした。それでも、はじめていきいきセンターのことを知り利用を継続されている団体や今年もセンター事業から立ち上がったサークルがあったということは、よい傾向だと思います。

・市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業については、「コミュニティガーデン「ohana」支援事業」の自走化に向けて ohana 会会員や地域住民とともに丁寧に事業を進めていきました。今年もガーデンのバラの花は沢山咲き、今までで最多の来客がありました。これからも ohana のいちばん近いところで見守りを続けていきます。

「なごみスペース～ようこそ～事業」では、参加者の中から上鳥羽小学校の新１年生にお祝いのタペストリーを贈ってはどうか？という案がでました。普段取り組んでいる折り紙で仕上げてプレゼントすると、保護者からもたいへん喜んでいただけました、という声を小学校からいただけました。また、同事業のなかの“いきいき絵本クラブ”が学区の山ノ本児童館からクリスマス会への出演の依頼を受けて、紙芝居等を上演しました。

“個がつながり仲間となって社会とつながる”という展開を支援できました。

・今後解決すべき課題

・各事業のなかでたくさんの個人や団体とつながりがもてましたが、それを充分にいかせていないことが課題です。日々の業務に時間をとられてしまい、市民活動支援事業にしっかりと向き合えていないと感じます。新たな人材の確保とそれぞれの職員がさらに適所で長所を発揮できる環境を整えていきたいです。

・次年度に向けた対応

・８年度からサークルの立ち上げのスタートアップを支援する事業を行います。すでに申し込みがあり、チラシ作成・配架等の支援を行っています。また、地域課題解決事業として「防災」「環境」をテーマにし、地域の施設や企業と連携しながら多角的にすすめていく計画をしています。

次年度も多くのつながりが期待できます。それをしっかりと受け止めて、活動支援の質の向上を目指したいです。

・コンプライアンスや個人情報の保護には細心の注意を払いながら事業運営していきます。

６．その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

〇　特筆すべき施設運営に関する重要又は異例な事項はありませんでした。

京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和7年度分）

指定管理者名　一般社団法人上鳥羽絆会
代表者名　　代表理事　前川 勝六

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		14,024,460	14,024,460	0
利用料金収入		800,000	517,600	282,400
	会議室等	800,000	517,600	282,400
その他収入	受取利息		23,908	23,908
	個別事業参加費等		54,000	54,000
当期収入合計		14,824,460	14,619,968	204,492
【支出の部】 １．施設運営業務				
人件費		7,800,000	7,197,756	602,244
	非常勤職員6名	7,800,000	7,197,756	602,244
光熱水費		500,000	478,098	21,902
	電気代	385,000	389,948	▲ 4,948
	ガス代	60,000	43,127	16,873
	水道代	55,000	45,023	9,977
施設管理費		836,000	833,866	2,134
	樹木剪定	92,400	92,400	0
	定期清掃等	114,400	114,400	0
	消防保守点検	24,200	24,200	0
	建築設備点検	55,000	55,000	0
	警備費	101,640	101,640	0
	カラオケリース料	224,400	224,400	0
	事業所ゴミ回収	71,940	77,550	▲ 5,610
	HP更新・施設案内他	152,020	144,276	7,744
事務費		1,370,260	2,329,305	▲ 959,045
	電話代	190,000	192,057	▲ 2,057
	税理士顧問料	130,000	101,200	28,800
	事務費他	860,000	1,965,956	▲ 1,105,956
	社内教育費	20,000	0	20,000
	その他事業・雑費	170,260	70,092	100,168
修繕費		550,000	296,263	253,737
	設備補修	250,000	270,963	▲ 20,963
	修繕費	300,000	25,300	274,700
備品購入費（５万円以上の物品）			232,100	▲ 232,100
	パソコン		232,100	▲ 232,100

租税公課				0
				0
その他		18,200	8,200	10,000
	賠償責任保険料	5,000	5,000	0
	諸会費	13,200	3,200	10,000
施設運営業務支出合計		11,074,460	11,375,588	▲ 301,128
２．事業実施業務				
市民活動支援・活性化事業費		3,210,000	3,310,366	▲ 100,366
	エコ活動	1,090,000	1,109,544	▲ 19,544
	いきいき上鳥羽プロジェクト	1,240,000	1,315,872	▲ 75,872
	おひさまカフェ	555,000	560,075	▲ 5,075
	ｺﾐｭﾆﾃｲガーデンohana支援	325,000	324,875	125
サロン運営・活用事業費		540,000	522,185	17,815
	なごみスペース～ようこそ～	540,000	522,185	17,815
その他	事業実施業務繰越			0
事業実施業務支出合計		**3,750,000**	**3,832,551**	▲ 82,551
当期支出合計		**14,824,460**	**15,208,139**	▲ 383,679
当期収支差額		0	▲ 588,171	588,171